

資 料

頼山陽の母が残した『梅颺日記』における 食物関連記述（第2報）

— 享和および文化年間 —

山村 千春*・中込 理恵*・小竹佐知子

*生活科学科 平成10年度卒業生

Food Affairs in 'Baishi Diary' Written by the Mother of Sanyo RAI (Part 2)

— Kyouwa and Bunka Periods —

Chiharu YAMAMURA, Rie Nakagomi and Sachiko ODAKE

Yamanashi Women's Junior College

1. は じ め に

前報¹⁾に引き続き『梅颺^{ばいし}日記』の享和および文化年間における食物関連記述を抜粋し、記載内容を分類した。分類に際しては、前報における分類を一部見直した。すなわち、日記を書き始めた天明年間、それに引き続く寛政年間にくらべて、享和および文化年間に入ると、家祭の記述がはるかに多くなされるようになり、さらにその内容も、祖先を祭る忌祭、朔の日（1日）と望の日（15日）の祭、時祭（2月、8月）と細かく分かれていた。これは、天明元年12月17日に広島藩学問所儒官として召し抱えられた頼春水（らい しゅんすい、頼山陽の父）が、儒家としての体裁を徐々に調えてゆき、文化元年頃はようやくその体制が整ってきた時期にあたるためである²⁾。そこで、前報までの家祭を、忌祭（略字、忌）、朔望

の祭（朔および望）、時祭（時）に分けた。その他の分類は前報同様、贈り物（略字、贈）、貰い物（貰）、購入（購）、来客給仕（客）、家族の食事（族）、五節句（五）、調理作業（調）、育児（育）、健康状態（健）、その他（他）および内容不明のもの（不）である。なお、表の日付のうちの■■■■部分は、夫・頼春水が広島に滞在している期間、それ以外の部分は江戸詰め期間である。

引用文献

- 1) 赤尾恵里・澤登正恵・和田さおり・小竹佐知子「資料 頼山陽の母が残した『梅颺日記』における食物関連記述（第1報）—天明および寛政年間—」山梨県立女子短期大学紀要、第31巻、135-150（1998）
- 2) 皆川美恵子『頼 静子の主婦生活 『梅颺日記』にみる儒家家庭』、雲母書房（1997）

頼宗家 頼惟勤（らい つとむ）・お茶の水女子大学名誉教授は、平成11年7月逝去されました。慎んで、ご冥福をお祈りいたします。

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
梅隠日記 卷十七				寛政13年/享和元年(1801)辛酉	84日/106項目	
738	1	正月	元日	小郎來賀、かん酒・吸物出ス。	客	
739	2		4	林來賀、かん酒出ス、とうゐ順達・與一來ル、酒出ス。	客	
740	3		6	七ぐさ摘。	調	
741	4		7	夜、お淳、祖父同伴ニて歸、止宿、其節、萬四郎も來、酒・雜煮出ス。	客	
742	5			御備物、七ぐさがゆ・御肴・かまぼこ。	五	
743	6		8	菜園を歩行、なゝをつむ。	調	
744	7			夜、御その母迎へに來、お淳歸る、雜煮・かん酒。	客	
745	8		10	源次妻、暮方來り、難儀成由いふ、くろ米二升遣す。	贈	
746	9		11	ふるやぶね、近日出る由、書狀出ス、しのだ親子・中井てい・赤松〔越智〕もと・田邊・吹田や、小郎と中井・篠田へ書狀行、枝柿百箱入、小郎こちら連名にて行、しのだへも、同事五十入也、海苔二把づゝ、しのだと堺へ遣す、四把にて一匁八分五り。	贈	
747	10		14	夜、伊助方に、雜煮にてまねく。	客	
748	11		15	御備物相濟、御肴するめ、小郎風氣ニて不參、一郎來ル。	望	
749	12		16	加藤母儀來賀、雜煮・寒酒、夜食出ス。	客	
750	13		18	自竹原書狀至ル、春餅贈來ル、暮前、竹原ます來ル、夜食出ス、銀札三匁、祝儀二遣ス、貞松、ますつれ歸る。	客	
751	14		20	萬四郎來問、酒出ス。	客	
752	15		25	與一母、年禮ニ來ル、砂糖少贈。	賞	
753	16		28	煮豆、御そのへ贈。	贈	
754	17	2	9	先達て御染筆物の禮、菓子料として金一兩來る、右の様子申上る。	贈	
755	18		12	茂八、今日と菜園こしらへニ來ル。	調	
756	19		14	藤田とむし菓子・小ざかな贈る。	賞	*1, 2
757	20		20	折から林堅良と、鮓、にしめ用の物、少々贈り來り、わかち遣す。	賞	
758	21			手附のし・吸物肴一種、家内いはふ。	育	
759	22		21	小郎、朝の内歸る、其節山中へ見合頼ミ、山中四つ頃見廻、乳付の事も、晩方よろしかるべく被申、八つ時分、村田妻駕籠にて迎へ、乳付たのむ、追付來る、其時分、小郎・道英	育	
760	23			暮早々、由良子・民子來る、堅良見廻、皆々酒飯出ス。	客	
761	24			夜五つ頃、乳に付る。	客	
762	25			御多門と、かちん一重來る。	賞	
763	26		22	加藤、歡に來る、數馬來る、いづれも酒出ス。	客	
764	27			御そのへ赤飯・にしめ持せ遣す。	贈	
765	28		23	駒井へ人遣ス序、にしめ・つくりみ少、酒少贈遣ス。	贈	
766	29			山中見合、酒切手一樽贈る。	贈	
767	30		24	加母來賀、同家と肴贈る。	賞	
768	31			御多門と鯛一尾贈來る、鮓つけ馳走にする。	賞	
769	32			數馬來り、鮓出ス、五つ前歸る。	客	
770	33		25	大坂と年始狀來ル、ふるや便、吹田や・中山書狀入・小山出南簾一片入・こんぶ・ほしかぶら・ごまめ頼遣ス、くろやき・べに等入。	贈	
771	34		26	升を祝かちん搗、前夜九つ過よりかゝり、今日八つ頃仕廻、直にくばりかける、長藏・茂八・久松・半藏・團六手傳。	調	
772	35		28	木や省一、歡ニ來ル、肴贈ル、にべ二尾。	贈	
773	36			武兵衛、歡ニ來ル、肴にべ・さざい贈ル。	贈	
774	37	3	朔日	小便大便、二十八日夜と不通、昨日一日不通、今晝前、澤山に通ず、乳の不足にてもありしか、何の事もなし、小水は澤山ニ通、夜前、藥ニ黃連少入。	育	
775	38		2	うば、終日不食平臥。	育	
776	39		3	御備物濟、わらび・大貝・にしめ・草のもち。	五	
777	40			村田、朝の内見廻、うばの乳よろしからぬ由被申、早々團六妻にいだかせ、村田へ乳もらひに遣、小兒置てかへる。	育	
778	41			うば、晝頃小豆飯このミくひ、直に吐、昨日より瀉もあり。	育	
779	42		4	伊助妻、親類をよびよせ、乳もらふ。	育	
780	43			ニギリ、與一母持參。	贈	
781	44		5	伊助親類乳持、夕方歸。	育	
782	45		16	事おひとて、次之者、禎二・くめなども來り、酒・でんがく・とうゑの木の葉いゝ(飯)など、たうべる。	客	
783	46		21	與一と、都具雄いはひ肴贈。	賞	
784	47		22	赤飯、祝もらひ候方へ遣す。	贈	
785	48		27	静、しよく事、常の味に成る。	健	
786	49	4	朔日	御備物濟、きのめあへ・御酒、御多門より父子來ル。	朔	
787	50		2	梶山母不快ニて、是又少々の物遣す。	贈	
788	51		4	さかなど、とゝのへ有りて、直次ニ夜食出ス。	客	
789	52		12	伊助方へ、赤飯・にしめ遣す。	贈	
790	53			武兵衛、仁室へ見廻に、鯛一尾持參、直ニ料理させ、武にも酒吞す。	賞	
791	54		14	與一と小鯛一尾、仁室へ贈。	賞	
792	55		16	伊助妻不快の由申來、不罷出、與一方小兒乳付に、うん遣す。	他	
793	56			二もんじやと鯛一尾贈來ル、短冊書くれと、先達てたのミ、紙おこす。	賞	
794	57			六丁目筆や妻來る、小鯛持參。	賞	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
795	58			與一方へ、鯛一・染物七尺、いはひ遣す。	贈	
796	59		21	幟たてて、酒・蛤吸物杯やらにて、家内いはふ、折節村田來り、酒出す。	客	
797	60			久松、せいぶ、ほゞシノサケ献ず。	贈	
798	61		23	うば、菖蒲やり二本・ふさ・鯛・サケ献ずる。	五	
799	62		24	都久々かた、少々きげんあしく、甘草ふり出し吞ます。	音調	
800	63		28	直次來、酒出ス。	客	*3
801	64		29	武兵衛、鷹ノさけ、いはひ來る。	賞	
802	65	5	朔日	御備物・かまぼこ、御多門ノ親子來。	朔	
803	66			數馬來駕、酒出ス。	客	
804	67		2	粽まく、ゆら子手傳に來る、一斗五升、内八升もち米。	五調	
805	68		5	武兵衛・平八・くめ・多門かゝ・與一・直次、酒出ス。	客	
806	69		13	うら廻り、梅、きのふけふ、おとす、皆五斗餘り、御多門へ一斗遣す。	音調	*4
807	70		21	小郎・與一來る、鮓出ス。	客	
808	71	6	1	數馬來り、酒出ス。	客	
809	72		9	到來肴、村田へ贈遣。	賞贈	
810	73			駒井小兒、初誕生にて、重之内來ル、直ニ到來大鯛壹尾贈。	賞贈	
811	74		15	御備物、焼まん。	望	
812	75	7	3	駒井、近來病人多く、菓子見廻遣ス。	贈	
813	76		7	熊介・松本・恕介、夜御招、酒出ス。	客	
814	77		8	嘉六來り、酒吞ス、竹原へ返書出し、静、返書不沙汰。	客	
815	78		10	中村政鮎贈、同人御招、中飯出ス。	賞客	
816	79			うばへ、切米かし三十匁。	贈	
817	80		12	昨夜連名の御奉書來る、来年ノ御借り米の事。	他	
818	81		15	夜、熊介・與一來る、酒出ス。	客	
819	82		18	衆來り、室へ干菓子贈、ぬのおさぬき。	贈	
820	83		20	岡野ノぼら二尾贈來る、一尾築山へ贈る。	賞贈	
821	84		21	先母君御忌日イシニ膳ノ物拵させ、下部ニ茶ノマス、ぬいばノ來ル。	忌	
822	85		22	貞松ノ文おこす、索麵贈來ル。	賞	
823	86	晦日		倉成先生、國元へ通行の由立寄、酒出ス。	客	
824	87	8	4	駒井ノ大いな壹贈來ル、與一よび、其肴にて夜食出ス。	賞客	
825	88		12	おくめ不快、さゞ飯・にしめ拵、少遣る。	贈	
826	89	9	6	御忌日御祭、御多門ノ夫婦來ル、自竹原御法事御備物贈來。	忌賞	
827	90		15	森下直ニ來ル、こま久同伴、酒出ス。	客	
828	91		16	森下來り、飯出ス。	客	
829	92		18	林堅良來、酒出。	客	
830	93		20	植田周助、酒出ス。	客	
831	94	10	10	夜、貞一・直次まねき、與一不參、でんがく・ぬた様のものにて酒出ス。	客	
832	95	11	1	御備物、雉子、宮島酒到來物。	朔賞	
833	96		2	から漬大根、茂八世話持來る、八百にて洗ちん共、十七匁六分、十九匁がへ。	購	
834	97		5	佐々此母來ル、酒飯出ス。	客	
835	98		6	ソバ切、貞松製、青木糸藏振舞。	客	
836	99		8	御勤歸り、直次へ御寄、夜食あがり御歸。	族	
837	100		11	竹原ぶね來る、たばこ・かんざし・手遊び・餅・ヤキブナ・ソバノ粉贈來る。	賞	
838	101		12	茂八、から漬つける。	調	
839	102		15	御備、甘干、一郎、熱アルよし。	望	
840	103		19	熊吉、ちよと歸、夜食くひ、又御同道、御多門へ行。	客	
841	104		22	味噌仕込、豆五升五合五分七りがえ、かうじ四枚、少、甘酒用に取。	調	
842	105		26	次ノ者、とうふヤク。	調	
843	106	12	6	下女不快の由申、晝飯後より休む。	他	
梅颯日記 卷十八				享和2年(1802) 壬戌	88日/101項目	
844	1	正月	6	ふるやぶね出ル、上方へ柿箱杯被遣。	贈	
845	2		7	御備物、七種粥・御肴かづのこ。	五	
846	3			都具、きげん常の通、昨夕より耳の邊こり有、眼ぶちへかけ、はれ有、村田見廻、散藥用る、酢にてときつける、夕方、氣おもき方。	育	
847	4		12	與一方へ、肴・手遊び・小豆飯贈遣す。	贈	
848	5		15	御備物、小豆がゆ・御酒・あなご、一枝軒ノ所贈。	望贈	
849	6		16	具足鏡びらき。	調	
850	7		17	都具、いよいよ快、いさまし、大かた常にふくし、ひるね杯一度になる、村田、痘にさだめ、酒湯、ひく。	育	
851	8			竹原上市ノ、かゞみもちみ來る、なみ子ノ年始書狀來る。	賞	
852	9		19	竹原へ書狀出ス、鏡餅贈遣す。	贈	
853	10	2	15	江田翁・萬四郎招、うたよむ、心静酌春酒題。	他	
854	11		20	こは飯こしらへ、十軒餘贈遣す。	贈	
855	12			萬四郎來祝、與一酒飯。	客	
856	13		23	中飯、萬四郎も來り、一緒ニ出ス。	客	
857	14	3	1	御備物、わらび。	朔	
858	15		2	にしめ物抔いそがし。	調	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
859	16		3	御備物、あハビ。	五	
860	17		6	旅人來り酒出ス。	客	
861	18		16	仙石より實名付ノ禮、肴贈來ル。	客	
862	19		19	藤田新五郎初、岩戸・梶山招、鮓ふれまい。	客	
863	20		22	土州の人出立、酒飯振舞、折節小郎來、酒飯出ス。	客	
864	21	4	8	此母入來、夜食出ス、都具に手遊び持參。	客	
865	22		15	御獲物、鯉御拜領、御備物に成る。	望	
866	23		17	御忌日御祭、御備物相調、御菓子御多門より來る、小郎夫婦・一郎手傳、ゆら子母子終日	忌	
867	24			冬の漬菜、今日迄用。	調	
868	25		29	歩行の時の禮、貞松へさし遣、光福寺へ酒陶遣。	贈	
869	26	5	2	粽こしらへる、もち米壹升四合・たゞ米三升八合・麥五合。	調	
870	27		4	加藤ゝなすび苗、もらひに來る。	贈	
871	28		5	御備物、粽、御肴ゑび・生瓜。	五	
872	29		15	御備物到來ノ菓子、小郎父子來ル。	望	
873	30		16	二もんじやゝ、鯛壹贈來ル。	贈	
874	31		21	梅ヲトス、大一斗五升。	調	
875	32			竹原へ返書出ス、しやうが漬、見廻ニ遣ス。	贈	
876	33		22	のりつけもの。	不	
877	34			御多門ゝ母子招、鮓ツケル。	調	
878	35		23	海田やへ、麩贈遣ス。	贈	
879	36			牛尾へ追悼ノ詩少々、精進物添御遣り。	贈	
880	37		24	嘉六來、酒呑ス。	客	
881	38		25	御多門ゝ、とうがらし、ふとんこしらへ來ル。	客	
882	39	6	6	太田・串田來酒、菱切出ス。	客	
883	40		15	御備物相すミ、小郎、中飯出ス。	客	
884	41		24	山田久次、夜來話酒出ス。	客	
885	42		27	寺川へ先達て肴もらふ、ふた物、伊ニことづける、青茶、入遣ス。	客	
886	43	7	2	未明、餞宴。	他	
887	44			加藤ゝ暑見廻、うづらやキ。	賞	
888	45		5	小郎暑見廻、中飯出ス。	客	
889	46		15	御備物、例の通濟、小郎來る、晝、素麵五十把ゆでる。	調	
890	47		29	尾道より、西瓜贈來ル。	賞	
891	48		4	夜、森藏之丞・佐々御招、勘次料理。	客	
892	49		5	村田へ鯛二尾贈遣ス、木村八左衛門ゝ到來也。	贈	
893	50		6	都具、瀉度々、痢のきみ、暮方、村田見廻、二貼、うばニ用る、大こんしぼり汁少呑ま	育	
894	51		15	御備物、だんご製。	望	
895	52		18	おくめ肴贈。	贈	
896	53		23	寺川よりあハせ直し來る、到來の鯛二尾、同方へ禮に遣す。	賞	
897	54		28	熊吉暮過乗船、小半紙一束・山椒もち五贈。	贈	*5
898	55	9	1	御備物、松茸。	朔	
899	56		3	うばに切米カス、五十匁。	他	
900	57			大熊留守へ酒爲持遣ス。	贈	
901	58		27	甲三郎來り、松茸持參。	賞	
902	59		28	ワリバゝ甘酒、御多門へ贈遣。	賞	
903	60		29	岩戸來、飯出ス。	客	
904	61	10	朔日	御備物、かき、御多門親子來ル。	朔	
905	62		3	竹原角屋正三郎ゝ、一枝年賀餅、贈來ル。	賞	
906	63		10	今夜、御着の御狀之祝ひとて、小酌。	他	
907	64		16	備後小川貞三なる人來る、小郎來會、酒出ス、晝かく人也。	客	
908	65		24	御忌日御祭、無滞濟、御多門より親子來ル。	忌	
909	66			夕飯後、ゆら子來ル。	他	
910	67		26	自江戸書狀至る、松村歸便、御道中料理書付來る。	他	
911	68	11	1	數馬來賀、中飯出ス。	客	
912	69		2	備前那須ゝ、あみ塩から・書狀來ル。	賞	
913	70		12	梶山ゝ小肴贈來る。	賞	
914	71		15	御備、せんべい、可部や贈ル、金米糖。	望	
915	72		16	にぎりいひ・大こん・かき貝・とうふ・なまこ・酒一升五合。	不	
916	73		24	味噌仕込、豆五升、代三匁三分。	調	
917	74		25	江戸へ、ばしやう布遣ス、御柿便、御早道、二十七日ニ出ル由、書狀認。	不	
918	75			から漬、伊助つける。	調	
919	76		26	でんかく・吸物・肴一種、表の衆・次の者振舞。	客	
920	77		28	六一酒飯振舞。	客	
921	78	晦日		都具、夜前もねかね、せく、へちまの水に、氷ざとう入、煎じ用る。	育	
922	79	12	1	御備物、いりこ。	朔	
923	80			數馬來賀、林來る、兩人同時也、酒出ス。	客	
924	81		5	夜、(府中)佐藤泰順來る、酒切手贈、當地に用事有て來る由、太吉應對也。	客	
925	82		6	武兵衛來り、酒呑す。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
926	83		8	はり供養、でんがくやく。	調	
927	84		11	都具、付薬もらひ、酢にてとき、つける、耳のきは、此中よりこり、よほどはれる。	育	
928	85		12	太吉と西條柿贈。	賞	
929	86		13	川崎と鯛一尾、歳末しうぎとして贈。	賞	
930	87		14	岩田とみかん五十・たんごいはし贈。	賞	
931	88		15	御備物、枝柿、太吉所贈。	賞	
932	89		16	都具、腫物埒明ぬ様二見へ、増村へ伊助つれ行、薬しやう汁にてつける、薬二貼。	育	
933	90		17	都築と大こん贈、一枝とあなご贈来。	賞	
934	91		18	自竹原歳末しうぎ、都具にたび、お十にぞうり、あなご来る。	賞	
935	92		19	竹原へ返書出す、三人の子達へ、はき物、海苔、上市へも、のり三把。	贈	
936	93		21	〔有田〕應助と大鯛一尾贈る、市川平之進と牡蠣・和歌添贈、藤田と牡蠣贈。	賞	
937	94		23	東五郎より大鯛二尾・小半紙二束・ゑほん二。	賞	
938	95		24	餅つき。	調	
939	96			金子熊介、小肴。	客	
940	97		25	築山と小肴三尾、茂平太酒、六一鴨。	賞	
941	98		26	いばらやと酒、御多門とかつのこ・かきもち、お十・都具へ、ぞうり。	賞	
942	99		27	伊助、酒一樽、都具へ、ぞうり。	贈	
943	100		28	小郎來問、夜食出す。	客	
944	101		29	萬四郎・一郎・敷馬、歳末來賀、酒出す。	客	
梅颯日記 卷十九				享和3年(1803)癸亥	82日/98項目	
945	1	正月	2	加藤來賀、カン酒。	客	
946	2		6	六一、カン酒。	客	
947	3		7	御備物相濟、御肴、あなご、一枝ともらひ。	五	
948	4		15	御備物相濟、御肴、かまぼこ、御多門と父子來。	望	
949	5		24	竹原と初てふね来る、かきもち、兩家と来る、大坂と取寄のくき菜小來。	賞	
950	6	閏正月	1	御備物、さじい。	朔	
951	7		2	六一と酒吞ス。	客	
952	8		15	竹原へ書狀出す、村田と贈海苔届遣す、徳兵衛ぶね。	賞	
953	9		22	雨、ふりこもり、でんがく。	他	
954	10		25	六一へ紫肴・都具羽織ゆづり祝遣。	贈	
955	11	2	14	東五郎餞別、六一・儀右衛門・伊助、酒肴もふけ、おもてにて酌、晝飯はおくにて餞別。	客	
956	12		20	都具生日、小豆飯にていはひ。	客	
957	13		22	竹腰十太と赤飯來。	賞	
958	14		27	岡田彦之進と、赤飯贈來。	賞	
959	15	3	朔	御備物、かまぼこ、ふき、小郎父子來ル。	朔	
960	16		3	御備物、草餅、御肴・あはび、萬四郎不參。	五	
961	17		6	夜、千齡肴、食事濟、直二御多門へ行。	他	
962	18		7	加藤と、年賀餅爲持に來ル。	賞	
963	19		8	暮前、千齡御多門と歸、酒飯す。	客	
964	20		15	御忌日、御備物相濟、一郎來、手傳。	忌	
965	21		22	二もんじやと肴贈來ル。	賞	
966	22		25	加藤へ行、年賀ノ印、馳走アリ。	他	
967	23	4	20	加藤へ菓子少、あや見廻二遣ス、同方へ文遣ス、ゆら子とノ音物ノ斷也。	贈	
968	24		23	のぼり立る、皆へ酒吞す。	客	
969	25		26	都具、同時、氣重し、うば殊外くるしくいひくる、都具、しょく事、常より少くなし、うばも一腕づゝ兩三度、其内、一度飯也、夜通しいねず。	育	
970	26		28	うば快、茶の間に食事する様也。	育	
971	27	5	1	都具快、乳母快、今日より薬かハる由。	育	
972	28			村田、夜見廻、酒出す。	客	
973	29		2	晴間に書院の梅おとす、五六升。	調	
974	30		4	一郎へ、にしめ少贈。	贈	
975	31		5	御備物、粽・御肴・園茄子。	五	
976	32			酒事。	他	
977	33		6	御借米御戻被仰付由、今日御用にて被仰付、竹腰左源次來申置。	他	
978	34		8	お十、同事、早朝氣分あしき事あり、しょく不進、すこしづゝ一腕づゝ三度。	俵	
979	35		9	お十、熱、夜、別て甚、不食、にむきやうの物斗。	俵	*6
980	36		18	御戻米御禮、御廻勤。	他	
981	37		21	築山來賀、酒出す。	客	
982	38		23	鮓つける、次郎贈物鯛也。	賞	
983	39	6	2	二もんじや來見、夜食出す。	客	
984	40		3	六一・伊助杯小酌。	客	
985	41			海武、肴持參。	賞	
986	42			駒井へ見廻文、到来の肴爲持遣ス。	賞	
987	43		15	御備、わらび餅。	望	
988	44		19	天のや十左衛門來、鯛・たばこ贈。	賞	
989	45		21	六一・くめ・多門之者、酒飯ス。	客	
990	46		25	市川來、酒出す。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
991	47		28	夕方白雨、茶屋へ肴来り、六一ニノマス。	賞客	
992	48	7	1	御備物済、御肴・かまぼこ。	朔	
993	49			村田安産、酒一樽遣す。	贈	
994	50			貞松よりしらき酒贈、六一ニノマス。	客	
995	51			井口莊助より鯛贈、梅園勝馬へ贈。	贈	
996	52		15	立一・應輔、そうめん・酒出す。	客	
997	53		16	夜、六一・熊介来、小酌。	客	
998	54	8	1	敷馬・六一来賀、酒出す。	客	
999	55		14	御氏神祭の式、成一郎・六一、酒飯出す。	客	
1000	56		15	夜、出羽の人と御話、後小酌、いとそうぞう敷、二更頃ねる。	客	
1001	57	9	1	御備へ済、多び。	朔	
1002	58		3	夜、熊介来、小酌。	客	
1003	59		9	御備物相済、御肴、巻いか。	客	
1004	60		11	朝おそく御出勤、御辨藤にて、串田・加美邊御出、二更頃歸。	他	
1005	61		15	御備物相スミ、到来ノ干菓子。	望	
1006	62		21	廣しまや半次来ル、酒飯出す。	客	
1007	63		22	林へ鯛二尾・陶硯贈遣す、弟入家祝。	贈	
1008	64			大久保へ、ひりうづ贈遣す。	贈	
1009	65		24	花や貞藏来見、酒出す。	客	
1010	66	10	朔	御備物済、鹽やき鯛、竹原米屋半三郎贈。	朔賞	
1011	67		3	うばあね、いはしくれる、ひしこにつける。	賞調	
1012	68		5	菜園の京なつける。	調	*7
1013	69		14	中島より肴贈来ル。	賞	
1014	70		15	貞松より肴おくる、使えはりませ物遣す。	賞	
1015	71	11	1	御備物、えび・御すし。	朔	
1016	72		9	六一、小酌。	客	
1017	73		11	學問所より御勤、青木にて夜食出、二更頃御歸。	族	
1018	74			から漬け大こん調、六百五十二で五匁、六百二で七匁二分、十匁がへ、十二匁がへ、兩人のを求む、十二匁二分。	購	
1019	75		14	那須より、ふくねいも贈来。	賞	
1020	76		15	都具を〔雄〕髪置、内いはひ、植田周助・熊介来かきり、酒飯出す。	賞客	
1021	77		20	可部や、みかん・九ねんぼ贈。	賞	
1022	78		25	味噌仕込。	調	
1023	79	晦日		幸次、そばこしらへる。	調	
1024	80	12	朔日	御備物済、鯛こ串やき。	朔	
1025	81			二桂来、夜食出す。	客	
1026	82		6	儀右衛門より、粕漬鯛おくる。	賞	
1027	83		7	夜一緒酒飯す、御多門より肴贈来る。	賞	*8
1028	84		9	くめ肴贈。	賞	
1029	85		10	伊助妻・りさ来ル、伊肴贈。	賞	
1030	86		11	大十郎来見、酒出す。	客	
1031	87			典次・大藏・六一肴贈。	賞	
1032	88			築山より鴨贈。	賞	
1033	89		13	おくり遣す物、鯛・いな五・さゞひ・玉子二十・ひらたけ。	贈	
1034	90			彌八・久松来、酒ノマス。	客	
1035	91		17	應輔来見、酒肴、手遊、家来へそれぞれ贈物。	賞	
1036	92		18	應輔来る、今朝酒・鴨、飲として贈。	賞	
1037	93		19	今夜酒出す。	客	
1038	94			二もんじやより、かきもち拵来る。	賞	
1039	95			飲二肴贈。	賞	
1040	96		24	餅つき。	調	
1041	97		27	幸次より、先達の飲、鯛はまやきくれる、酒の肴にする。	賞	
1042	98			夜、四つ時分、御鏡備へ、拜。	調	
梅颯日記 巻二十				享和4年/文化元年 (1804) 甲子	46日/51項目	
1043	1	正月	2	築山・加藤、カン酒。	客	
1044	2		3	一郎来賀、セち出ス、武兵衛・多門カ、カン酒。	客	
1045	3		4	駒井敷馬・一郎、よびニ遣、いづれもカン酒。	客	
1046	4		6	わかなつむ。	調	
1047	5		7	御備物相済、御肴、かづのこ。	五	
1048	6		8	松平よりかゞミ、すそわけ。	賞	
1049	7		12	具足鏡びらき。	調	
1050	8			熊吉・典次、カン酒。	客	
1051	9		14	太吉兄、鏡もち持参、中飯出す。	賞	*9
1052	10		20	自竹原かゞミもち来る。	賞	
1053	11		21	竹原へかがミもち遣す、かもやぶね便。	贈	
1054	12		23	昨日、近江屋茂四郎より肴おくる、金子平馬へ遣。	賞	
1055	13			照蓮寺より文来る、酒、飲二贈来。	賞	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1056	14		24	夜、岡田嘉裕招、酒飯。	客	
1057	15			乳事、快、夜久敷起居ワヤワヤ云。	客	
1058	16		25	乳、いとま願ひ、願の通申付候様、伊へ申付る。	育	
1059	17		晦日	同人へ南簾一片・酒一樽遣す。	贈	
1060	18	2	10	夜、築山入来、酒飯す。	客	
1061	19		13	小池一三招、酒飯出ス。	客	
1062	20	3	朔	御備物スミ、御肴、サバイ。	客	
1063	21		2	草のかちん製。	朔	
1064	22		3	御備物濟、御肴、鯛ツクリ。	調	
1065	23			自大坂書状、干かぶら・こあゆ来ル、吹田屋年始状入、りき便、二月二十日出。	五	
1066	24		4	庭の櫻ちる、庭に筵敷、酒とうべ遊ぶ。	貫	
1067	25		23	夜、嘉祐来話、そば切・酒出ス。	他	
1068	26	4	朔日	御備物相濟、かす漬鮎、お肴。	客	
1069	27		3	豊前・長崎兩僧来、酒出ス。	朔	
1070	28		5	可部やうたけのこ贈。	客	
1071	29		15	村田へ大鯛一尾遣す、東五郎・辰藏二尾贈内也、箱代八匁も遣す。	貫	
1072	30		24	のぼりたて、〔手傳ひの者へ〕少しノマス。	客	
1073	31	5	3	粽こしらえる。	調	
1074	32		14	鮎こしらへ、藤田新五郎まねく。	調	
1075	33		18	都具、ね覺うば尋ね泣、よくよく申聞、菓子などあたへ、其後よくあそぶ、夜ねる時、ねかねる、うし尾庄二郎・おたかよびよせ、伽させる。	育	
1076	34	6	7	三五誕生日、赤飯・ナマス・煮物おくる、到来の酒、祝し遣す。	贈	
1077	35		15	都具、御園へ行、酒引一樽持参、伊助・もと供。	贈	
1078	36		23	加藤々暑氣見廻、ケイラン贈来。	貫	
1079	37		28	六一々赤飯贈来る、宮参り。	貫	
1080	38	7	7	家内小酌。	族	
1081	39		17	夜、熊介来、小酌。	客	
1082	40		19	駒井・室屋邊御勤、駒井にて御中飯。	族	
1083	41		25	夜、但馬の國なる櫻井齋来り小酌、熊介も来ル。	客	
1084	42	9	朔日	御備物濟、御肴松茸。	朔	
1085	43		13	夜、熊介・六一、小酌。	客	
1086	44		26	夜、天のや八兵衛来、酒・蕎麥出ス。	客	
1087	45		29	松平々ゑび・糍おくり来ル、同人へ紙筆之類御やり。	客	
1088	46			寺川々こはいひ・甘酒贈。	貫	
1089	47	11	10	廣半来、酒出ス。	客	
1090	48		16	御そのへ料理物爲持遣す。	贈	
1091	49		19	昨今、から漬大こん、茂八々入。	貫	
1092	50		27	夜、宜默へ、そばニ被招御出。	族	
1093	51		晦日	ミそ仕込、大豆六升・かうじ四枚・塩三合五勺。	調	*10
梅颯日記 卷二十一				文化2年(1805) 乙丑	61日/65項目	
1094	1	正月	4	庄・と夕方々宿へ遣ス、だんご母へ遣ス。	贈	
1095	2		6	例のごとく、七草摘。	調	
1096	3		8	佐七、在へ行便に、貞松方へ、あさ漬梅干贈遣す。	贈	
1097	4		11	具足鏡びらき。	調	
1098	5		14	武兵衛、緑豆持参。	貫	
1099	6		15	御備物相濟、御肴、生あなご、やきて。	望	
1100	7		21	夜、田頭来、そば切・酒出ス。	客	
1101	8		22	夜、熊介・長次郎来、酒出ス。	客	
1102	9		25	竹原へ年始返書遣す、かゞミ餅共。	贈	
1103	10	2	晦日	御備物無滞濟、御自身御こしらへ。	忌	
1104	11		13	自大坂正月二十四日出書至、干かぶ・數のこ贈来、ふるや舟便。	貫	
1105	12		17	寺川へ歎文遣ス、鯛・ゑび、添盃二。	贈	
1106	13		晦日	大槻民次〔平泉〕・櫻井齋・僧一人来、酒飯出ス。	客	
1107	14	3	朔日	御備物濟、御肴、めばる小串。	朔	
1108	15		21	築山招、酒飯、午後より来話。	客	
1109	16		25	松廣にて酒宴、六一も同じく酌。	客	
1110	17	4	朔日	御備物相濟、玉子やきて。	朔	
1111	18		15	御備物相調、京々来すはま。	望	
1112	19			室屋常三郎々鯛二尾来、一、串田へ贈。	貫	
1113	20	5	朔日	御備物相濟、ヤキ玉子。	朔	
1114	21		3	粽まく。	調	*11
1115	22		15	御備物、酒肴。	望	
1116	23		26	御肴拜領、中島より爲持来る。	貫	
1117	24	6	朔日	御備物相濟、御多門々鯛来。	朔	
1118	25		6	權二郎〔熊吉改稱〕御目見、出入の者、駒井杯まねく。	貫	
1119	26		10	平田道宣てふ醫師、出羽〔同〕人来る、終日饗應、小郎も来り、詩作。	客	
1120	27		17	贈・煮物にて、いたみ。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1121	28		23	夜、小郎父子・熊介来、子酌。	客	
1122	29	7	2	駒井へ小豆飯・煮豆・小鯛遣す。	贈	
1123	30		7	御備物相濟、御肴、あじ・酢かけ・あぢ瓜。	五	
1124	31	8朔日		御備物相濟、御肴多び、萬四郎父子、晝飯出ス。	朔	
1125	32		6	御料理被下、四つ半、御登 城、夕七つ頃御歸。	貴	*12
1126	33	閏 8	3	ミそのふ新兵へ、茶・やき米持參、夜宿。	贈	
1127	34		5	殿様御歸城、御待受御登城、御多ものはまち拜領。	貴	
1128	35		8	〔林〕天真來、酒出ス。	客	
1129	36		21	己斐隱居來ル、酒出ス。	客	
1130	37			播磨・近江の兩遊人〔遊歴者〕來る、酒出ス。	客	
1131	38		29	竹原へ書狀出ス、吉兵衛ぶね、はまぐり遣す、所々書狀添。	贈	
1132	39	9	2	竹原へ書狀至、庄十郎ぶね、いも・柿來。	貴	
1133	40			お十、ひぢりめん・あついた帯・白むく・もんパどうき、京金山を紙包、藤村書遣す、ミそ二匁分遣。	貴	
1134	41		6	茂八ニ米少遣ス。	贈	
1135	42		7	かもやぶね來る、大くち濱やき鯛贈來、米や〔吉井〕半三郎便に、直に返書。	貴	
1136	43		14	寺川へ被招行、小堀女も來るよし申來、竹原へ行門人へ酒肴贈。	貴	
1137	44		15	數馬來り、酒飯ス。	客	
1138	45		19	江原廣左衛門へ酒贈來る。	貴	
1139	46		20	明神祭もらひ芋來ル。	貴	
1140	47		26	御客へ本膳出ス。	客	
1141	48		29	□□□□酒飯出ス。	客	
1142	49	10	5	伊助、姉十三年忌茶のご贈來。	貴	
1143	50		12	〔長崎〕中尾長三郎、夜、招來、酒・そうめん等出ス。	客	
1144	51		14	照蓮寺へ酒・長いも、お十へ草り贈來、文添。	貴	
1145	52		15	御登 城の後、御備物相濟、到來の干菓子。	貴	
1146	53		16	駒井へ御出、長いも・一酒、少々おミや。	贈	
1147	54		20	夜、坂井來、小酌。	客	
1148	55		21	から漬大こん、二匁八分がへ、二十匁分調。	調	
1149	56	11	9	御家督爲御祝儀爲御料理被下、辰の刻前へ御登城。	貴	
1150	57		10	御鷹野小鴨、拜領。	貴	
1151	58		25	味噌仕込。	調	
1152	59	12	7	〔倉敷〕岡惣右衛門へ、御賞〔兄弟、孝子旌賞〕の祝、糯米來、二もんじにて、製。	貴	
1153	60			同方へえと〔干支〕見廻、餅來る。	貴	
1154	61		15	御備物相濟、萬四郎結構〔加祿〕御告ニ付、酒肴御備。	望	
1155	62		20	坂井・熊介招、小酌。	客	
1156	63		23	加藤へ歡に御出、盃・大松魚二、御持參。	贈	
1157	64		25	かちんつき。	調	
1158	65		27	生日〔山陽誕辰〕、かつヲ膳・かきあつもの。	族	
梅颯日記 卷二十二				文化3年(1806) 丙寅	46日/51項目	
1159	1	正月	5	加藤來賀、かん酒。	客	
1160	2		15	六一、かん酒、頭痛にて不參。	客	
1161	3		16	野村正友來、酒出ス。	客	
1162	4			二もんじや來賀、酒飯。	客	
1163	5		19	江田隱居來問、中飯出し、已後歸。	客	
1164	6		20	仲恕、明朝出立にて、晩方小酌。	客	
1165	7		29	仙石へ肴一來ル。	貴	
1166	8	2	23	大坂へ書狀出ス、海苔三把、堺へ年賀として一樽料遣す、中井・越智・吹田やへ年始狀遣	贈	
1167	9			太中弟勝登入學、酒肴贈る。	贈	
1168	10		25	鮓つける。	調	
1169	11		27	小郎招、小酌、餞別の心也。	客	
1170	12		29	片岡へ進物、同方へ肴來ル。	貴	
1171	13	3	朔	學館へ御出勤、已後御備、草かちん拵ル、夜。	調	
1172	14		6	御發駕拜見ニ行、室屋にて馳走に成る、歸がけ、御多門へ行、初更前歸る。	族	
1173	15			四日市へ人來ル、じゅんさい・そばのご贈來ル。	貴	
1174	16		22	太吉・吉二郎まねき、小酌。	客	
1175	17	4	7	鮓つける。	調	
1176	18		15	御備物相濟、わらび餅製。	調	
1177	19		18	井上幸次郎來、小酌。	客	
1178	20		29	梅、おとす。	調	
1179	21	5	2	粽、こしらへる。	調	
1180	22		8	土州の人來、酒出ス。	客	
1181	23		20	伊助母、年忌にて、料理物贈來る、エクズシ。	貴	
1182	24		21	吉兵衛ぶね來り、權・尚、左右聞える、たばこ・麥など來る。	貴	
1183	25		24	鵜瀬一席書、菓子、夕飯出ス。	客	
1184	26		25	申の刻頃へ、鵜父子來、菓子出ス。	客	
1185	27	6	10	武本父子、夜來る、餞別酒出ス。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1186	28		13	加藤へ、到來肴一尾見廻ニ贈、同方よりけいらん送來。	賞	
1187	29		20	〔福山藩江戸邸醫〕伊澤辭安〔蘭軒一長崎出張ノ途中〕來る、酒出す、深更迄話。	客	
1188	30	7	朔	御備物濟、カマボコ。	朔	
1189	31		17	元、下宿、そうめん少遣す。	贈	
1190	32		21	御忌日、萩の花こしらへ、人々に茶勧む。	忌	
1191	33			青木へ、干しほ遣す。	贈	
1192	34		27	玉江春堂來り、酒出す。	客	
1193	35	8	27	御出勤、直ニ加藤へ御出、竹御丸より御肴拜領、御泉水記文被仰付、其ゆへ也。	賞	
1194	36	9	15	大こんな、つける、代十匁分。	調	
1195	37		23	靜齋、夕方より來、皆々へ酒飯出す。	客	
1196	38	10	朔日	靜齋も招、酒飯出す。	客	
1197	39		14	數馬來、飯出す。	客	
1198	40		15	山口彦助來、酒出す。	客	
1199	41		21	野村伊三郎、夜來、酒出す。	客	
1200	42		27	くき大根、茂八せハ、二匁二分分調。	購	
1201	43	11	22	ミそ、仕込。	調	
1202	44	12	朔日	御備物相濟、小鴨やきて、御そのより來。	朔	
1203	45		2	大こん、切干きる。	調	
1204	46		15	御備物相濟、枝がき、太吉所贈、干くはし、茶屋贈所。	望	
1205	47		17	五斗ミそ〔糠味噌〕、仕込。	調	
1206	48		21	三五疱瘡、神送り、小肴・酒遣す。	贈	
1207	49		25	餅つき、くめ・茂八・源十手傳。	調	
1208	50		29	直次・禎二酒出す。	客	
1209	51			數馬來賀、酒出す。	客	
梅颯日記 卷二十三				文化4年(1807) 丁卯	45日/50項目	
1210	1	正月	元旦	數馬來賀、酒飯出す。	客	
1211	2		3	禮に御出、加藤にて中飯、處々御勤。	族	
1212	3		7	御備物相濟、御肴、冬到來物かす漬鯛。	五	
1213	4		11	具足びらき。	調	
1214	5		12	夜、伊助方へ招き、饗應。	族	
1215	6		15	御備物相濟、御肴、ヤキ玉子。	望	
1216	7	2	18	夜、杉山玄端同道にて、長州の人太中〔臼杵鹿垣〕なる人來り、小酌。	客	
1217	8		晦日	駒井へ酒遣す、三廻忌法事。	贈	
1218	9			藤田へ酒一樽、江戸見立。	贈	
1219	10			玉江、京より歸來、とらやまんぢう・唐墨持參。	賞	
1220	11	3	朔日	備前もそく、御備ニ成ル。	朔	
1221	12	4	朔日	御備物相濟、うど到來物、いか。	朔	
1222	13		15	御備物相濟、すはま、照蓮寺〔より〕京みやげ。	望	
1223	14	5	朔日	御備物、いか、いりこ。	朔	
1224	15		3	粽、まく。	五	
1225	16		15	御備物相濟、わらび餅。	望	
1226	17		24	御出勤、直に御多門へ御出、夜食前御歸。	他	
1227	18		28	棚守〔嚴島・野坂梅園〕來、酒飯出す。	客	
1228	19	6	朔日	御備物相濟、鯛片身、御多門より來。	朔	
1229	20			男山酒殘、小郎に出す。	客	
1230	21		5	御多門・佐々へ酒遣す。	贈	
1231	22		15	御備物、求肥〔牛皮〕糖・大坂ゑなみや〔榎並屋一入江石亭〕贈所、御菓子うれしの・千齡〔肥前より〕持歸分。	望	
1232	23		18	村田來、酒飯出す。	賞	
1233	24		23	御多門へ、米一斗用立。	客	
1234	25	7	26	お肴拜領、夜、御城へ取に、人遣す。	他	
1235	26			自竹原書狀、米五俵至る。	賞	
1236	27	8	13	大坂へ書狀出す、肴料一封遣す、病人見舞、寺川便、夫木集之仕立〔製本〕も遣す。	贈	
1237	28		25	佐々、夜小酌。	客	
1238	29		27	小郎・佐一郎來、小酌。	客	
1239	30			阪井より酒肴贈、覺助〔高知・松田思齋〕餞別。	賞	
1240	31	9	9	御登城後、御備物、まながつを、任到來備へる。	五	*13
1241	32		26	竹原へ書狀出す、味噌・酒遣す、天のや便。	贈	
1242	33		28	夜、寺川家内來、お十、一緒に白神へ參、歸て饗應。	客	
1243	34		29	六一・禎二・武兵衛來ル、酒出す。	客	
1244	35	10	18	夜、熊介、跡より旧秤來る、酒出す。	客	
1245	36		19	夜、旧秤・太中・元端・萬四郎來、酒出す、鶏鳴。	客	
1246	37		23	貞松よりせ話して、大こん調。	調	
1247	38		25	二もんじやより、書の禮、肴とゞけ來る、やき鹽遣す。	賞	
1248	39		26	夜、岡田・金子來、小酌。	客	
1249	40	11	7	晩方、佐々此母來、小酌。	客	
1250	41		8	父君御忌日、ニゴミ拵、皆々へ遣す。	贈	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1251	42		23	伊助方へ兼約断、田楽・煮ごみ贈。	贈	
1252	43		25	味噌仕込。	調	
1253	44		28	次の者、おたい夜とて、でんがくやき、出す、梶山來合、爲膳。	客	
1254	45		29	青木・龍神招、中島不斗來、同酒飯す。	客	
1255	46	12	朔	城後、御備、御肴、鴨、御多門と拜領物。	賞	
1256	47		14	田頭へ被招御出、出振舞、鶴・鯉の庖丁仕よし也。	他	
1257	48		23	駒井家内皆々來、響應す。	客	
1258	49		25	餅搗。	調	
1259	50		晦日	御多門・駒井・佐々木、酒出ス。	客	
梅飢日記 卷二十四				文化5年(1808) 戊辰	120日/153項目	
1260	1	正月	2	小郎來、寒酒。	客	
1261	2			ふじや妻・武兵衛、かん酒。	客	
1262	3		3	太郎三・室屋・千藏、かん酒。	客	
1263	4		4	數馬來、かん酒。	客	
1264	5		5	棚守來賀、萩かまぼこ・柴金苔・土佐かひらけ贈。	賞	
1265	6		6	七ぐさ、つむ。	調	
1266	7			誠齋來、酒出ス。	客	
1267	8		7	御備物相濟、御肴・かまぼこ、棚守所贈。	賞	
1268	9		9	村田と海苔贈來。	賞	
1269	10		10	加藤へ酒贈遣す。	贈	
1270	11		11	具足びらき。	調	
1271	12		12	直次來、酒出ス。	客	
1272	13		14	都具を、左儀長見物旁、今中へ行、ミやげ、ぎうひ少持參。	贈	
1273	14			加藤來賀、酒出ス。	客	
1274	15		15	御備物相濟、御肴、ヤキ玉子。	客	
1275	16		16	二上と酒來ル。	賞	
1276	17		18	勝登と酒肴贈、旧年の延引物。	賞	
1277	18		21	良平、在る歸る、もちゐ・鴨・柿・菓子・酒おくる。	賞	
1278	19		22	竹原とかがみ餅來る、こちらと〔も〕遣。	賞	
1279	20		23	久井と砂糖壹。	賞	
1280	21		27	御歸城、晝九つ時、御目覺、御場所、直ニ辨藤にて御出。	他	
1281	22		28	夜二更頃、駒井と迎に來り、母子歸、酒一陶・柿など爲持歸らす。	贈	
1282	23			玉江、長崎たばこ・茶碗様の物贈。	賞	
1283	24			佐々へ鯛贈遣ス。	贈	
1284	25		29	村田彦五郎と酒贈。	賞	
1285	26	2朔日		御忌日御備物相濟、竹原と來、〔正月二十四日、藩侯御立寄ノ時〕拜領の鯛・友益と贈。	賞	
1286	27			鴨・いばらやと來る長いも等、御備に成。	賞	
1287	28		3	二もんじやと肴贈、大橋と肴・諸口〔紙〕來。	賞	
1288	29		5	鯛壹、あはや五作。	不	
1289	30			茶・紙、ミの口や道榮。	不	
1290	31			六一來、見合、酒出ス。	客	
1291	32		6	阿波小寺と、このはがれい、舟のもの歟、そうめん贈。	賞	
1292	33			砂とう、三谷おくる。	贈	
1293	34		7	權二郎、やすへ行、とうとう庵〔武元登々庵〕・いばらや・かもや・直十父子・阿波や五作來、酒出ス。	客	
1294	35			素平と梅わん贈。	賞	
1295	36		10	神邊藤井と、味噌漬鯛來。	賞	
1296	37		11	いてうや來、杉原・酒引贈來。	賞	
1297	38			夜、佐々來、いさゝか響應。	客	
1298	39		13	三永正治、菓子贈。	賞	
1299	40		14	招請の人数と連名、酒來。	賞	
1300	41			駒井不參、昨夜、鶏雄卵贈。	賞	
1301	42		19	夜七つ頃より、佐々來、酒飯ス。	客	
1302	43		21	佐々より、千齡肴贈來。	賞	
1303	44		25	清水民司、賞〔十ノ結婚媒〕として來、酒出ス。	客	
1304	45		27	夜、萬四郎來、酒出ス。	客	
1305	46			二もんじと、あはび贈。	賞	
1306	47		29	吹田やと文、御加増歡、鯉節贈來。	賞	
1307	48	3朔日		學問所へ拜禮として御出、後、御備物相濟、御備物、わらび・ゑび。	朔	
1308	49			石川元兵衛來問、酒出ス。	客	
1309	50		2	夜、駒井近所出火、飯など煮、見廻ニ遣す。	贈	
1310	51		3	城、後、御備物、菱餅・あはび。	五	
1311	52			武兵衛・貞林、酒飯ス。	客	
1312	53		4	中島・竹腰孫十郎招請、伊助料理。	調	
1313	54		9	川ノ上又右衛門來、酒出ス。	客	
1314	55		10	登々庵、萬四郎へ出會のため來る、酒出ス。	客	
1315	56		19	可部屋と鯛贈、鮓ニこしらへる。	賞	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1316	57		20	幸右衛門、酒肴・うどん持参。	賞	
1317	58			直二・禎二來合、酒飯ス。	客	
1318	59		21	六一初、出入ノ衆中、祝酒出す。	客	
1319	60		24	次の者、田樂ヤキ、直二・多二郎・助十、酒出す。	客	
1320	61		25	天のや來、酒出す。	客	
1321	62		26	直二・多次郎、夜來、酒出ス。	客	
1322	63		27	六一・禎二・助十郎杯、べつにて酒出す。	客	
1323	64		28	ミそ仕込。	調	
1324	65	4	朔日	數馬來、多次郎來、酒出ス。	客	
1325	66		2	夜、直次・早右衛門來、酒・うどん出ス。	客	
1326	67		3	青木ヲ肴贈來ル。	賞	
1327	68		4	伴傳右衛門ヲ肴來ル。	賞	
1328	69		9	小出ヲ三原酒贈來。	賞	
1329	70		10	青木へ歡使、鯉節遣す。	贈	
1330	71			三つ口俊澤ヲ鯉節贈。	賞	
1331	72		14	夕、六一來、酒出す。	客	
1332	73		15	御備物相濟、寺川より贈、せんべい寺田ヲ贈茶山吹。	客	
1333	74			六一・禎二・幸三郎、酒飯出す。	客	
1334	75		18	清水・竹本來祝、用談し、酒出す。	客	
1335	76		22	駒井・太郎三、其外伺公組、みな本膳出す、凡七八十程、供方十一人共。	客	*14
1336	77		23	早朝、かね箱・皿貳つ、爲持遣す。	贈	
1337	78		26	林後室、歡ニ來、數馬來、何れも夜食出す。	客	
1338	79	5	朔日	御備物相濟、鯛小串やき。	朔	
1339	80			吉之助・數馬、禮に來、酒飯す、數馬仕舞來ル、吉之助夕、詰引ヲ。	客	
1340	81			武兵衛、酒出ス。	客	
1341	82		2	三雲、歡ニ來、酒出ス。	客	
1342	83		3	清水來、酒出す。	客	
1343	84		4	進藤へ粽遣す、同方ヲも來る、おとを、きぬ單物、一緒ニ遣す。	贈	
1344	85			夜、登々庵來、酒出す。	客	
1345	86		5	御登城、後御備物、御肴、土佐かつをぶし・竹の子。	五	
1346	87			數馬・吉之助來、夕飯出す。	客	
1347	88		6	角屋正三郎、御留守へ來、酒出ス。	客	
1348	89		8	清水へかり物戻す、かつほ節添。	贈	
1349	90			六一へ、鯛一かけ・酒・小半紙二、遣す。	贈	
1350	91		14	蒲生、歡に來、酒出す。	客	
1351	92		15	千代、酒贈。	贈	
1352	93		17	加母・ゆら子來、寺尾彌助來、酒飯ス。	客	
1353	94		27	茶のここしらへ、御多門留守・進藤・伊助留守などへ遣す。	調	
1354	95	6	朔日	吉之助・數馬來賀、酒飯出ス。	客	
1355	96		6	進藤・駒井・太田へ、御出勤御歸ヲ直ニ御出、進藤にて御夕飯。	族	
1356	97		13	進藤へ申遣、いづれも來、折ふし數馬も來、酒飯。	客	
1357	98		15	御備物相濟葛餅。	客	
1358	99		25	進藤、明日法事、ひりやうづ〔油揚げ豆腐〕贈遣す、かうがいも遣す。	贈	
1359	100	閏 6	朔日	御備物相濟、あぢ鮓漬・しそ・たで。	朔	
1360	101			吉之助御同伴御歸、數馬も來、同食。	客	
1361	102		4	到來物有て、吉之助へ申遣、來話、五更迄、進藤へ鮓五・古帷子遣、やれともきあらひ、其分も。	贈	
1362	103	7	朔	御備物相濟、御肴からすみ。	朔	
1363	104		4	奈良漬製、うり四つばかり、粕一メ五百目。	調	
1364	105		7	城後、御備物、瓜・御肴ゑび。	五	
1365	106			吉之助來賀、酒飯出す。	客	
1366	107		10	甲州家〔浅野甲斐〕ヲ三原酒・曝一疋贈來、額字禮也。	賞	
1367	108		15	武兵衛・ていりん・しはばば・多門かゝ、そうめん、酒のます。	客	
1368	109			進藤へ小豆一重・ミわら酒少遣す。	贈	
1369	110			岩戸へ、巻そうめん七・大かつをぶし一遣す。	贈	
1370	111			寺川へ、巻そうめん七遣す。	贈	
1371	112		18	青木へ、巻そうめん十、駒井へ三原酒贈遣。	贈	
1372	113		22	鯛とゝのへ、酒召上らる、肴代一匁五分。	調	
1373	114		26	ひしほからし煮。	不	
1374	115	8	朔日	御帳御登城後、御備物、御肴やきいか。	朔	
1375	116		8	寺庄・玉江に、中飯出す。	客	
1376	117		25	進藤へ、茸贈遣す、はぜ魚、うつりに入來る。	贈	
1377	118		27	夜、柳川書生三津治なる者來、酒出す。	客	
1378	119	9	9	御登 城後御備物、御肴、ゑび。	五	
1379	120			數馬來賀、中飯一緒ニ祝。	客	
1380	121		20	暮前、御三の丸へ御出勤、御歸、進藤へ御出、同家婚禮今晚也、鯛二尾・藻うを一、添遣	贈	
1381	122		24	都具召連、暮頃ヲ御出、夜九つ過御歸、小半紙二束・酒一升遣す。	贈	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1382	123		28	御出勤、進藤へ御見廻、あの方皆風邪、久太郎、同家へ歡に行、晩方おミを、下ぎ類・甘酒・茄子・香物、おくり遣す。	贈	
1383	124		29	伊助妻・絹座まつ・糸等、甘酒など遣す。	贈	
1384	125	10	朔日	御備物相濟、鯛切身やきて、御肴。	朔	
1385	126		4	九助、多門萬藏來、甘酒所望、遣す。	贈	
1386	127		5	梶山は忌中見廻、重之物遣す。	贈	
1387	128		14	青木・築山・寺川まねく、紅勘料理。	客	
1388	129		15	山崎・坂・金子・植田庄二郎招、紅勘料理。	客	
1389	130		22	御加増、内祝、餅つきくばる。	調	
1390	131	11	朔日	御備物相濟、あなご、やきて。	朔	
1391	132			吉之助來、夜食出ス。	客	
1392	133		5	夜食料理こしらへ、御内祝、六一・直次申來、いづれも故障にて不參。	調	
1393	134		7	進藤へ御出、同方へ胡まミそ製遣。	調	
1394	135		9	夜、進藤へ御見廻、重之物少御持參。	贈	
1395	136		15	から漬大こん、つける。	調	
1396	137		17	正善坊來、酒出ス。	客	
1397	138			戸島、髪置にて、都具雄被招行、扇子二遣す、赤飯、都歸時爲持贈。	賞	
1398	139		18	天重・鴨直來問、酒出ス。	客	
1399	140		22	小池來、酒出ス。	客	
1400	141		25	二もじやへ人遣す、三原大こん遣す、貞松へハ文斗。	贈	
1401	142		26	味噌仕込。	調	
1402	143		28	夜、山田久次郎來、酒出ス。	客	
1403	144	12	2	正善坊隱居宗旦來、酒出ス。	客	
1404	145			多門の者、今日もうつる、肴奉る。	贈	
1405	146		13	自竹原、歳暮物來る、あなご・都具へ、ぞうり。	賞	
1406	147		14	五斗ミそ仕込。	調	
1407	148			夜、山田久次郎へ、酒出ス。	客	
1408	149		15	御備物相濟、わらび餅。	客	
1409	150		22	餅米、かし。	望	
1410	151		23	儀助妻來、牡蠣持參、ぞうり遣す。	他	
1411	152		24	餅搗。	賞	
1412	153		29	歳晚御拜、夜四つ過頃相濟、夫といづれも御禮申上、重三郎へも酒すゝめ杯にておそく成、酒出ス。	調	
梅麿日記 卷二十五				文化6年(1809)己巳	79日/91項目	
1413	1	正月	2	數馬・菅野、寒酒。	客	
1414	2		3	吉之助來賀、寒酒・中飯出ス。	客	
1415	3		5	加藤來賀、寒酒。	客	
1416	4		7	御備物相濟、御肴、鯛酒いり。	五	
1417	5		11	具足びらき、折ふし、直次來り、もちろ・酒遣す。	調	
1418	6		13	勇次入學、酒肴・紙・扇子等贈、酒・吸物出ス。	客	
1419	7		15	御備物相濟、御肴、鯛やき也。	客	
1420	8		16	夜、稻生へ御出、にしめ・うづらやき、酒少御持參。	望	
1421	9		18	伊助方・糸方へ、にしめ・枝かき、少づ遣す。	贈	
1422	10		21	竹原より年始文、餅贈來。	贈	
1423	11	2	朔	慈仙來、晩食出ス。	賞	
1424	12			夜、天のやかもや來る、餅出ス。	客	
1425	13			矢野・中や年賀、餅也。	客	
1426	14		2	夜、講釋已後、植木直太夫へ酒出ス。	賞	
1427	15		11	竹原醫師井上とやらん來、酒出ス。	客	
1428	16		13	夕、おもてにて小酌。	客	
1429	17		22	時祭無滞相濟、おミほ終前ニ來る、御菓子持參、備に加る。	賞	
1430	18	3	朔日	御備物相濟、御肴、かまぼこ。	朔	
1431	19		3	御登城後、御備、御肴、さゞい。	五	
1432	20			吉之助來賀、御備前ニて饗應なし。	客	
1433	21		10	映雪へ生魚贈遣す、いはしや病人見廻也。	贈	
1434	22		21	久太郎、築山へ行、夜食たべ歸。	族	
1435	23		25	駒井へ、婚禮歡使遣す、ぼら二・和紙二束也。	贈	
1436	24	4	朔日	御備物相濟、出雲より贈海老御肴。	朔	
1437	25		6	夜、青木榮藏・熊田七次郎へ、鮓にて酒出ス、熊田へハ案内有。	客	
1438	26		7	御出勤、辨藤にて、夕迄御詰、直ニ慈仙へ御出。	族	
1439	27		14	おミほ、袖留の由、酒遣す。	贈	
1440	28		15	御備物相濟、到來干菓子。	望	
1441	29			吉之助、晩方來る、酒飯出ス。	客	
1442	30		16	映雪、いばらや徳右衛門召連來、酒出ス。	客	
1443	31		19	定平、桑取歸、めい酒屋。	他	
1444	32		24	夜、山田久次郎來、酒出ス。	客	
1445	33	5	朔日	御備物相濟、御肴、さより。	朔	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1446	34		3	粽まく。	五調	
1447	35		5	御登城後、御備物相濟、御肴、やき玉子。	五	
1448	36		13	晩方、慈仙來、飯出す。	客	
1449	37		15	御備物相濟、枇杷・干菓子。	客	
1450	38	6	朔	權二郎、例之處ニ禮に行、御多門にて飯す。	望族	
1451	39		3	多門之者、米六斗つく。	調	
1452	40		14	久太郎、齋藤へ蓮見とて、朝飯頃と行、五つ前歸。	他	
1453	41		15	御備物相濟、葛餅、廿日市中川八郎所贈。	望	
1454	42		18	岡田・坂井招、小酌。	客	
1455	43			儀助妻來、酒飯遣ス。	贈	
1456	44		24	三雲來、酒少出。	客	
1457	45		26	駒井へ、かん物三色、三匁也、酒一樽遣。	贈	
1458	46		28	晩方、正善坊來、酒出す、直次同酌。	客	
1459	47		29	府中龍泉寺來、酒出す。	客	
1460	48	7	3	夜、岡田・山田久次郎招、來、酒出す。	客	
1461	49		4	夜、武兵衛來る、西瓜持參、中元祝儀也。	客	
1462	50		6	正善坊より、喜撰茶・すもじ贈來。	賞	
1463	51		7	御禮御登城後、御備物相濟、御肴・すとかまぼこ也、小郎父子來る、佐一郎、先へ歸、萬四郎、酒飯出す。	賞五	
1464	52		12	夜、直次よびに御やり、酒出す。	客	
1465	53		13	岡田嘉祐へ御出、久太郎御先へ行、酒肴御持爲。	贈	
1466	54		23	晩方、萬四郎父子・岡田・坂井・飯田等來、小酌。	客	
1467	55	晦日		書類御認、二もんじと肴贈來、酒上る。	賞	
1468	56	8朔日		御登 城後、御備物、石工儀助と贈御肴、玉子煮ぬき。	朔	
1469	57		10	暮過、權二郎・助十郎乗船、佐十ぶね、酒二升、お唯、松がねたばこ入、おとし同様、やうじ入添、しやうが漬曲物一持爲。	贈	
1470	58		13	萬四郎父子招、岡田・坂井・夜まねき、小酌、詩つくる。	客	
1471	59	9	1	夜食、金山饒別。	贈	
1472	60			吉之助、夜食出。	客	
1473	61		4	天のや・かもや、夜來、酒出ス。	客	
1474	62		8	米屋半三郎と、肴贈來。	客	
1475	63		15	友益より、松たけ・しめじ贈來。	賞	
1476	64		18	茂印〔茂八〕に、黒米三升遣ス。	贈	
1477	65		21	映雪來、酒飯出す、當座よむ。	客	
1478	66		23	松井茂兵衛招、夜話ニ來、酒出ス。	客	
1479	67	10	2	傳藏來見、鯛・扇子贈。	客	
1480	68			古賀一左衛門〔穀堂〕、早朝來訪、酒出す、有合肴。	客	
1481	69		5	御忌日御備物相濟、小郎來、中飯出ス。	客	
1482	70			慈僊、夜來、酒・菓子出す。	客	
1483	71		7	傳藏、夕方來り、酒出ス、又夜來、酒出ス、萬四郎跡と來、同酌。	客	
1484	72		15	御登城後、御備物、佐一郎、學問所へ出るよし御告にて、肴御多門と來、御酒献る。	客	
1485	73		17	米一俵紛失、火とほす時分。	他	
1486	74		18	新兵衛、晝頃歸る、札銀五匁玉・砂糖・扇子三、贈遣す。	贈	
1487	75		21	御多門とあらめ來る、直段不知。	賞	
1488	76	11朔日		晝後より牛田へ御出、久太郎・都具も行、進藤へ都つれ御より、夜食出る。	族	
1489	77			夜、數馬來、酒出す。	客	
1490	78		9	六一・伊助・直次・金春傳九郎等招、小酌。	客	
1491	79		15	から漬大こん千求、代十六匁。	購	
1492	80		19	小郎來、府中そバ切持參、酒出す。	客	
1493	81			伊助、ちよと來、やき鯛、おミほへおくる。	賞	
1494	82		25	味噌仕込。	調	
1495	83		26	夜、切干きる。	調	
1496	84	12朔日		御登 城後、御備物、御拜領の鴨やきて御肴。	朔	
1497	85			晝後、萬四郎・佐一郎來る、酒出す。	客	
1498	86			城良之進まねき、酒出す。	客	
1499	87		10	夜、おミほ來宿、歳暮祝儀也、音物あり、肴。	客	
1500	88		12	不時詩會、辨藤にて御話。	族	
1501	89		17	夜、小郎來、酒出す。	客	
1502	90		19	伊助來話、鳥料理等仕る。	調	*15
1503	91		29	御多門いわ井かつのこ 貞松 壹封5匁・酒壹樽養子飲 進藤いは井酒壹樽 ちひ おしろい きとう貳匁分 おくめ例之 通 加藤寒氣見廻旁 金山 半みそ さゝい 宮島贈 かいふや祝酒 樽 ていりんかき二十 かづのこ 小鉢に入 駒井雄へぞうり いは井酒壹樽 おかねへかき 梶山娘へばた 多門 壹封 かつのこ添 寺川かき廿 伊助 壹封 子供ぞうり 二もんじや來時 小鴨一羽遣 植田周助 酒壹樽 いはらや 酒壹樽 ミのしや 塩肴大小三尾 仕立物代三匁 築山 かも 酒小とくり 二人廿六日遣 天神町慈仙宿 同 直次へかも 世話禮心	贈	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
梅麿日記 卷二十六				文化7年(1810)庚午	138日/169項目	
1504	1	正月	元旦	落合通り、酒出す。	客	
1505	2		2	小郎至賀、かん酒。	客	
1506	3			七つ過頃〔山陽〕書状至る、別紙ニとうがらし、ふとん・せきせうの事申越。	他	
1507	4		5	酒井へ酒鳥、御加増歡ニ遣。	贈	
1508	5			駒井來、寒酒。	客	
1509	6			高橋忠平、在るもちみ贈來。	賞	
1510	7			くめ方、かちん初穂とて爲持來、同國ばゝ〔祝品〕ゆへ、一匁づゝみてやる。	他	
1511	8		6	坂井來、かん酒。	客	
1512	9			吉之助、夜來、寒酒吸物、鴨澤山ニ振舞。	客	
1513	10		7	御備物相濟、御さかな、手前製鹽鯛やきて。	五	
1514	11			武兵衛・だん原千藏禮に來、酒出す。	客	
1515	12		8	ふじや妻、娘つれ來賀、かん酒。	客	
1516	13		9	大島直次・上坂兩士まねき、酒飯出ス。	客	
1517	14		11	具足びらき、御場所初手前よみ初。	調	
1518	15		15	御備物、御肴デビラ。	望	
1519	16		17	いはみ二重扇子箱入一・鯉節五本・酒一樽持參。	賞	
1520	17		18	いはみ二重扇子・とさ大ぶし三本・酒一樽、是ハあの方にて調るつもり。	他	
1521	18		19	城良之丞來、酒出ス。	客	
1522	19		22	進藤へ見舞遣す、にしめ・小肴・小豆飯算也。	贈	
1523	20			松年來賀、雑煮出ス。	客	
1524	21		23	竹原より年始書状至る、かゞみもちみ、例の通、つけもの等也。	賞	
1525	22		24	干かぶら添、吹田や書添。	賞	
1526	23		26	二もんじ來見、黒砂糖一曲贈。	賞	
1527	24		27	禮司來、酒出ス、夕飯出ス。	客	
1528	25	2	2	進藤へ、めばる三つ遣す、山まゆ帶、色上遣す。	贈	
1529	26			茂八、種物代二匁遣す。	購	
1530	27		9	府中りうせん寺來、酒出ス。	客	
1531	28		11	大坂へ書状出ス、しのだ・さかい・吹田や、篠田へ枝かき五十遣す。	贈	
1532	29		14	金子・兩植田招、酒飯出ス、到來物あるゆへ也。	客	
1533	30		15	御登 城後、御備物到來御菓子、白雪かう。	客	
1534	31			小郎父子來、中飯出ス。	客	
1535	32			了伯・清記、酒飯出ス。	客	
1536	33		16	夜、直次來、酒出ス。	客	
1537	34		27	内輪小酌、夜、傳九郎來、酒のます。	客	
1538	35	3	朔	御備物相濟、ます御肴、金春贈物。	賞	
1539	36		2	伊助來、にしめこしらへる。	調	
1540	37		3	御登城後、御備物、御肴、大貝・にしめ、小郎來拜。	五	
1541	38			吉之助來賀、ねり酒出ス。	客	
1542	39		4	りさ來、酒ノマス。	客	
1543	40			かうの仁右衛門來、酒出ス。	客	
1544	41		5	牛山園花見ニ招かれ行、進藤家内誘ひ、此方とも、にしめ・飯持參。	他	
1545	42			神邊より書至、二月二十三日・二十六日追書、砂糖・ナツトウ來。	賞	
1546	43		6	御出勤、御辨藤にて、築山へ御出。	他	
1547	44		7	林の母來、夜食出ス。	客	
1548	45		8	やき鹽一、中島へ御贈り。	贈	
1549	46		10	桃林、花盛のよし、武兵衛申來、今日間合よく、都つれ行、かいふや饗應へ、八つ頃ゝ行、五つ過歸。	他	
1550	47		11	桃林へ行、かいふや饗應。	他	
1551	48		12	神邊へ書出ス、砂糖漬大曲物、臈に遣す、太田清六便、せうがかう二包、奥方へ贈遣す。	贈	
1552	49		15	古賀門人七郎なる人來、風航・春耕三人に中飯出ス。	客	
1553	50		16	寺川家内來問、ばん方吉之助來、一緒に夕飯出ス、吉之助先へ歸、おみほ・寺川一緒ニ立座、九つ半過。	客	
1554	51		18	意戒來る、讃州の僧、徳應寺弟僧同道、酒飯出。	客	
1555	52		20	意戒來、金春よびに遣り、夜食出ス、鯛いりて、とうふ・したし物・はまぐりみそ・ますやきて・酢つけ・とうふ玉子。	客	
1556	53		23	夜、萬四郎・直次來、酒出ス、にしめ・したしもの・三杯づけさかな・干うどん・鯛みそ	客	
1557	54		24	竹ノ丸にて番ばやし拜見に御出、やきみそ・したし物。	不	
1558	55			さかな・ぼらさしミ・ぼら付やき・ミそしる午旁がき。	不	
1559	56			さはら・ふすまし。	不	
1560	57		27	夕方、萬四郎、又、吉之助、小酌飯出ス。	客	
1561	58			六一々鯛贈來る。	賞	
1562	59		28	進藤ゝ千公へ見廻、角はんへい・酒贈來。	賞	
1563	60		29	龍仙寺春耕來、酒出ス。	客	
1564	61	4	6	今宵、千齡乗船の催し、伊助、夕方迄出立料理こしらへ歸、暮過いづれも牛田より御歸、御多門父子も來る、琴、村田ゝ取よせる。	調	
1565	62		9	進藤へ、にしめ・赤小豆飯贈遣す、其内少し、加藤へ贈遣す。	贈	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1566	63		10	〔長崎通詞〕徳見茂四郎來、酒出ス。	客	
1567	64		11	夜、中島來話、茶菓子出ス。	客	
1568	65		15	御備物相濟、權二郎訓導の事御告ニ付、酒肴備る。	望	
1569	66		16	進藤、竹のこ・つりしのお贈來。	貴	
1570	67		17	御忌日御備物御調、御多門、別荘の茶、進藤、園中のたけのこ贈來。	忌	
1571	68		20	細六郎來、酒出ス。	客	
1572	69		21	神邊より書狀至る、四月十七日出、同所藤井料介來便、同人來、酒出ス。	客	
1573	70		22	料介來り、酒出ス。	客	
1574	71		26	龍泉寺來、酒出ス。	客	
1575	72	5	朔日	御禮後御備物、御肴、かまぼこ、萬四郎來拜。	調	
1576	73		2	粽こしらへる、四匁分、二店〔二文字〕へたのむ。	調	
1577	74		3	夜、加藤へ梅に行、重之物、伊助拵、加藤へ贈。	贈	
1578	75		5	御禮後御備物、御肴、拜領の鰯。	五	
1579	76		6	築山へ、細の術見物に御出、權・都も行、前に酒肴御おくり。	贈	
1580	77		12	伊助來、備物こしらへる。	忌	
1581	78		13	夕、正善坊・龍仙寺、春耕來、酒飯ス。	客	
1582	79			村田へ、安座・只娘痘のよろこび旁、鯛壹尾・ぞうり一足贈遣す。	贈	
1583	80		14	到來物有て、松田喜内招、酒飯出ス。	客	
1584	81		15	御禮後、御備物、氷砂糖・ぎゅうひ。	望	
1585	82		21	四つ時頃、御城に御出、築山と御約束、御しらべ御用敷、御辨藤。	他	
1586	83		25	殿様御歸城、夜御肴拜領、鯛二尾。	貴	
1587	84			梅おとす、三斗漬る、五升、戸島五升、貞りんに恵む、町ざかひの梅、實多し、おもての分、未うれず。	調	
1588	85		27	大坂松岡八兵衛來、重の物持參、山口恕介・松岡利平次も來	貴	
1589	86		晦日	夜、典次來、酒出ス。	客	
1590	87	6	朔日	御登城後御備物、御肴、ゑび。	朔	*16
1591	88			夜、吉之助來、飯出ス。	客	
1592	89		2	神邊より書狀來ル、江原母便、寒晒箱入來。	貴	
1593	90		4	土生へ返禮に御出、直に御場所・御城へ御出、御辨藤。	他	
1594	91		6	龍仙寺春耕來、酒出ス。	客	
1595	92			江原はへ、鯛三尾贈遣す。	贈	
1596	93		9	到來物有て、久野喜太郎へ御申遣、夜來、酒出ス。	客	
1597	94		23	夜、かもや直十郎來、酒出ス。	客	
1598	95			武兵衛來、酒出ス。	客	
1599	96	7	3	竹原すへ乗せん、ふる羽織地、餘一單物系じま・そでなし古・くろざとうつかはす。	贈	
1600	97		7	御登城御帖、御備物相濟、御肴、鯛焼。	五	
1601	98			傳藏へたのみの焼塩來。	不	
1602	99		9	加藤より肴贈來、小鱸二、綾子文添。	貴	
1603	100		14	梶山へ酒、お安へ例の品、貞林へさきパーさし、京橋へ小豆、加藤へやき塩、禎二へ大鯛、庄五郎へ鯛二尾、是ハ江戸戻歟。	贈	
1604	101		24	夜、三津社人坂井立庵來、酒出ス。	客	
1605	102		28	夜、久野來、酒出ス。	客	
1606	103		29	此頃、御ハ、うき、御かた、つかへ、終日かゆ。	健	
1607	104	8	朔	御登城後禮御、御備物、御肴拜領のいな。	朔	
1608	105			貞林・桑、酒飯ス。	客	
1609	106		4	神邊より書狀來る、七月晦日出、白砂糖少贈來る。	貴	
1610	107		6	久野昨日の歡に肴贈、こち二、たよおやに遣す、尾道へ歸、ミやげ等おこせし答禮。	贈	
1611	108		9	かななべ書至、そうめん贈來、奥方文添。	貴	
1612	109			久太郎より、合歡酒おこす。	不	
1613	110		10	時祭無滞相濟、萬四郎父子來、吉之助・數馬・六一・直次・伊助初、家内例の通來、不斗來者、江原興兵衛・高月左右衛門など來、酒飯す、ていりんもよぶ。	時客	
1614	111		12	晩方、興兵衛來、酒出ス。	客	
1615	112		13	豫州の左右衛門贈、小かつほぶし五つ添、興兵衛え、扇子三、石摺様のもの、小かつほ五つ添、御贈り。	貴	
1616	113		21	萬四郎、權二郎餞別、伊助、終日料理、おミほへも申遣、來る。	調	
1617	114		22	御三の丸、大學御曾讀御卒業に付、御酒御吸物被下、加藤も同様也、御歸がけ、築山へ御見廻。	貴	
1618	115		29	府中龍仙寺へ、松たけ一かご贈、春耕兩人來、酒出ス。	客	*17
1619	116	9	朔	御備物、御肴、松たけ・ゑび、龍仙寺・村田贈所。	朔	
1620	117		6	龍仙寺春耕來、酒菓子出ス、松たけ贈。	客	
1621	118		7	竹原へ鮓おけ戻す、備前より贈來水母入遣す。	他	
1622	119		9	御備物、くり、牛山園御肴ゑび。	五	
1623	120		17	神邊より書狀至る、菓子、久太郎 餅ひしとて贈來、返書、夜出ス、菓子禮失念。	貴	
1624	121		20	加母ゆら子歩行歸がけ寄、飯出ス。	客	
1625	122		26	甘酒製。	調	
1626	123		29	伊助・忠藏・作平次・くめ等來り酒飯す。	客	
1627	124	10	朔日	御備物相濟、御肴、ひよ鳥、佐一郎來拜。	朔	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1628	125			茂八跡のものへ、白米五升・銀札五匁つかはす。	購	
1629	126		2	みそのふ村新兵衛茶や米持来。	贈	
1630	127			夜、六一・直次・伊助、酒飯す。	客	
1631	128		3	夜、石原柳庵・坂井来、酒出す。	客	
1632	129		6	駒井と庭前柿贈来ル。	賞	
1633	130		7	嘉兵衛より物持参、夜食出ス。	客	
1634	131		12	嘉兵衛来ル、松年飯ス。	客	
1635	132		15	御備物相濟、御菓子、神邊より来干菓子。	望	
1636	133		19	山口唯次書状、保命酒一陶来。	賞	
1637	134		20	石原柳庵出振舞心にて、岩戸方にて集曾、阪井・六一も行、小豆飯二升焚遣。	贈	
1638	135		24	駒井新婦初来、酒飯出す。	客	
1639	136		29	進藤へ、いんげん豆・いも・こんにやく・にしめ遣す。	贈	
1640	137	霜月	朔	御備物相調、御肴、鴨焼て、龍仙寺贈物。	賞	
1641	138		2	榎丁すゑと、さつまいも・黒豆贈。	賞	
1642	139		3	映雪来ル、酒飯ス、夜に入歸。	客	
1643	140		4	夕飯後と、龍仙寺へ御出、餘一御供、坂井・柳庵行。	他	
1644	141		5	龍仙寺春耕・柳庵など来、酒出す。	客	
1645	142		7	登々庵・柳庵来、酒出す。	客	
1646	143		8	六一娘、ひもはなし、鯉節五・襦袢袖口遣す、一尺五寸・代四匁八分七り。	贈	
1647	144		15	御備物濟、茶・うぐひす、菓子・大坂。	望	
1648	145		16	味噌仕込、豆ハ一昨日焚、伊助来かゝり手傳。	調	
1649	146			神邊より書来る、當八日認、串田便、砂糖一袋添。	賞	
1650	147		20	龍仙寺春耕来、酒出す。	客	
1651	148		22	進藤へ御下着の裾直し、たのミ遣す、硯ぶた残物爲持遣す。	贈	
1652	149		26	進藤へ、暮頃と行、ミやげ、ゑび十一曲物、もとへ油、夜半過歸、空ハあがり、道あ	贈	
1653	150	12	朔日	御備物相濟、御肴、鯛切身焼て。	朔	
1654	151		4	から漬大根、直次世話、川上と持来、大こん直にあらひ置。	調	
1655	152		5	餘一、進藤へおみほ膏藥爲持遣す、同方にて飯たべ、京橋筋へ行。	他	
1656	153		6	千助、風邪二付、から漬大こん、茂助ニあませ干す、かゝも来、菜の世話さす。	調	
1657	154		8	加藤お綾と、かれい二贈来。	賞	
1658	155		11	進藤へ、あんびん・ひらぐき〔京菜〕遣す。	贈	
1659	156		14	吉之助来、夕飯出ス。	客	
1660	157			御三の丸へ御出勤、御吸物御酒頂戴、帯地御拜領。	賞	
1661	158		15	御備物相濟、御菓子、住吉せんべい。	望	
1662	159			餘一、京橋筋・進藤へ禮に行、進藤にて飯たべかへる、九助送来。	他	
1663	160		17	神邊より書状来、甘露酒添来、忠便、十四日出。	賞	
1664	161		18	神邊へ飛脚出立、室屋酒二升・鶏卵さいり二十五箱入にして遣す、内室へせうがねり二包遣す。	贈	
1665	162		21	神邊飛脚歸、がんび紙百枚・蕎麥の粉・やきふな二三〔茶山へ〕進物。	贈	
1666	163		22	千助不快に付、多門に正月飯米つかす。	調	
1667	164			しハばと来、薬代遣す、から漬三桶ツケル、今少し残あり。	調	
1668	165		25	餅つき、伊助・恵吉・六二・茂助・ていりん・多門かゝ手傳。	調	
1669	166		26	〔江原〕興兵衛より、なら漬贈来。	賞	
1670	167		27	門松たて、源十・千助、さけせがみ吞〔ます〕。	客	
1671	168			誠齋来、酒出す。	客	
1672	169	晦日		吉之助・佐一郎・誠齋、同時に来、酒宴、伊助も来、貞琳〔も来る〕。	客	
梅颯日記 卷二十七 文化8年(1811)辛未				144日/201項目		
1673	1	正月	元旦	御禮御登城、權門御勤、御歸館後、寒酒、御備物早朝相濟。	朔	
1674	2			直次・六一同時来賀、かん酒。	客	
1675	3		2	處々御禮の御出、駒井・室小・矢木幸右衛門・ダン原千藏等来賀、いづれも寒酒。	客	
1676	4		3	吉之助来賀、かん酒、夕飯出す、家来したゝめ。	客	
1677	5		4	りさ・貞琳禮に來、かん酒。	客	
1678	6		5	桑原・松六・茶佐・三雲、かん酒。	客	
1679	7		6	六一、夕方来、酒御相手。	客	
1680	8		7	御備物相濟、御肴、からすみ。	五	
1681	9		9	餘一、木村へ行、昨日の挨拶、餘一にも参様被申所、不参ゆへ也、同所にて雑煮出タリト云、進藤・京橋筋へ寄り、歸。	他	
1682	10		10	吉之助・萬五郎招、鴨吸物振廻。	客	
1683	11		12	節分。	他	
1684	12		15	御備物相調、御肴、粕口漬、仙石と来。	賞	
1685	13		25	神邊より年始書状来、松永便とやら、砂糖一曲贈来る、昨日也。	賞	
1686	14		29	進藤へ、山鳥もらひに遣す、あめ・はさみ・みやげ二使にことづけ来る。	賞	
1687	15			静、少々不快、口中あぢなく、のんどいたみ。	健	
1688	16	2	朔	加古川の飛脚来、酒飯す、竹原ぶねにて歸。	客	
1689	17		5	夜、吉之助来、酒飯す、拜領の鶴少持参、室小来、二もんじや話する。	客	
1690	18		13	竹原より、御法事餅菓子贈来。	賞	
1691	19		15	御備物相濟、御菓子、神邊より来。	賞	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1692	20		16	餘一、御園・寺川へ行、同家へ砂糖一曲・筆あき箱爲持遣す。	贈	
1693	21		17	加藤來る、酒出す。	客	
1694	22			みそのふ、茶仕廻。	他	
1695	23		19	神邊より、かゞみもち來、竹原便、昨日也、行違ひ。	貴	
1696	24		25	廣半來、有合酒出す。	客	
1697	25		27	學問所へ直に辨藤にて、御三の丸へ御出。	他	
1698	26			廣半來、酒出す、今晚酒出す、今晚乗船と云。	客	
1699	27	閏 2	朔	御備物、御肴、めばるやきて。	朔	
1700	28		6	下女共、やき餅こしらへ、進藤へも遣す。	贈	*18
1701	29		12	千齡歸旅行に付、御備物、御酒御肴。	他	
1702	30		15	御備物、御菓子、到來物干菓子。	望	
1703	31		16	六一娘痘二付、小重箱に、にしめ・やき餅等入遣す。	贈	
1704	32		18	寺川へ寢覺蕎麥贈遣す。	贈	
1705	33		20	六一方小兒、痘仕上り、昨日酒湯二付、柴肴祝ひ贈來。	貴	
1706	34		29	進藤へ、鯉さしみ硯蓋殘爲持遣。	贈	
1707	35	3	朔	御備物相濟、御肴、セイゴいりて、佐一郎不參。	朔	
1708	36			草の餅製、もち米七升・こゞめ一升五合程。	五	
1709	37		2	進藤へ年始旁行、ねり酒先刻遣、墨・かつほ節二本持參。	贈	
1710	38		9	貞松同伴、夕飯過八つ時分、林半平へ行、家來ツケル、貞松先へ歸。	他	
1711	39		13	石風呂へ、味噌二匁・鯉節壹本遣。	贈	
1712	40		16	暁、舟つく、石ぶろ座敷へ上り、認「食事」して能見物に行、火ともす迄、能ありて見物して歸る、夜食仕舞、芝居見物に行、慈光・貞松・家來萬藏へ行ず。	他	
1713	41		18	餘一、進藤へ見廻に遣す、鮓少、伊助方へおこせたるを、直に同方へ遣す。	貴	
1714	42		20	竹原より書狀來、千齡當朔大坂へ着、左右しのだる文來る、二月五日出、砂糖一曲贈。	貴	
1715	43		22	宮じまへ、飯來遣す。	贈	
1716	44		23	進藤へ、小豆飯・にしめ、見廻に遣す。	贈	
1717	45		25	市川野右衛門へ、酒肴御ヤリ、頼まれ物。	贈	
1718	46	4	朔	御供物相濟、御肴、酒盜、阿州六郎贈所、佐一郎不參。	贈	
1719	47		7	國禪寺初來、酒出す。	客	
1720	48		10	夕、貞松來、酒料遣す、禮、又、江田追悼歌の事相談、夜宿。	客	
1721	49			春耕來、石摺する、酒飯出す。	客	
1722	50		11	正善坊宗谷來、酒出す。	客	
1723	51		15	御備物相濟、唐白雪糕。	望	
1724	52		18	鮓つけ、佐一郎招。	課	
1725	53		23	伊助方へ見廻遣す、小豆飯・小肴三いりて。	贈	
1726	54		28	餘一不快、度々吐あり、御園見廻、兩人共同様の由にて、同藥調合也。	健	
1727	55		29	靜・餘一共、吐やむ、食進ず。	健	
1728	56	5	朔日	御備物、御肴、神邊（江原）與兵衛（よりの）まながつを。	朔	
1729	57			吉之助來、酒飯出す。	客	
1730	58		4	梅おとす、大梅斗。	調	
1731	59		5	御備物濟、御肴、生瓜もみ、肴交り、佐一郎來。	五	
1732	60		16	慈光院乗船に付、餞別うちは一、福山そうめん・ロベに、半切少遣す。	贈	
1733	61	6	朔日	御備物相濟、御肴、山田屋より贈かます。	朔	
1734	62		10	夜、萬四郎來話、正善坊も同時來、酒出す。	客	
1735	63		15	御備物相濟、松露糕御菓子。	望	
1736	64		22	金春傳九郎へ肴贈、同人招、酒飯、宵の内話。	貴	
1737	65		28	土藏普請、再取かゝり、今日酒吞す。	客	
1738	66	晦日		久野、見廻に來、聖光寺よび、酒出す。	客	
1739	67	7	朔	御備物、御肴おぼいけ大之助贈物。	朔	
1740	68		4	夜、小池一三見廻、酒出す。	客	
1741	69		7	御備物成、御肴、鯛やきて・あぢ・瓜。	五	
1742	70			夜、久野來、小酌、詩つくる。	客	
1743	71			槌之進・くめ・たつ妻、飲食事有。	客	
1744	72		10	朝の内、萬四郎來、中飯出す。	客	
1745	73		12	竹原より書狀來、直に返書、干うどん贈來。	貴	
1746	74		14	中元祝儀、京橋筋へ、そうめん干物五・近藤へ、そうめん十九把・おみほへ五匁・かいふや一樽・おくめへ米三升。	贈	
1747	75		15	權二郎、直に京橋筋へ行、追て餘一も往、晝、そうめん御あがり、京橋筋へ御出。	族	
1748	76			くめ・貞琳・文五郎來合、そうめん出す。	客	
1749	77			貞松へ素麺二十五把、中元祝儀に遣す。	贈	
1750	78		16	萬四郎、祠堂拜、昨日の御酒出す。	客	
1751	79		18	夕、吉之助來、酒飯出す。	客	
1752	80			御出勤、直に進藤へ御出、夕飯同所にて出、上阪に歡に御出。	族	
1753	81		19	夜、佐一郎來、小酌。	客	
1754	82		23	竹原より文、小豆贈來、佐十便。	貴	
1755	83	8	朔	御備物相濟、京橋筋へ鯛・勝屋大藏へ松茸。	貴	
1756	84		2	かよ宿下り、素麺十一把遣す。	贈	
1757	85		5	池内喜平太來、酒出す。	客	
1758	86		7	不時詩會、御出勤、御城へ被爲召、御場所へ御出、暮て御歸、久野御同伴、酒飯出る。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1759	87		13	竹原御祭、夜食に料理成る。	他	
1760	88			貞松來、貞林飯す。	客	
1761	89			喜兵衛、四郎ト改名に付、鯛差出す。	客贈	
1762	90			貞林飯す。	客	
1763	91		22	りさ來、殘物にて酒吞す。	客	
1764	92		24	春閑、朝飯後歸る。	他	
1765	93		25	直次來、酒飯。	客	
1766	94		26	中飯時、串田來、酒出す。	客	
1767	95		27	龍仙寺・山崎や、要用來る、まながつを持參、一尾、牛田山へ、權持參。	貴	
1768	96		28	吉之助來、酒飯す。	客	
1769	97	9	朔日	御禮御登 城後御備物、御肴、にべやきて駒井贈物。	明客	
1770	98		2	夜、神尾來、酒飯出す。	客	
1771	99		4	神邊より狀付來る書生御逢、酒出す。	客	
1772	100		7	高橋、はまち贈、夜、進藤へ少贈遣す。	貴贈	
1773	101			松茸、宗益、是又少そへ遣す。	貴贈	
1774	102		9	御登城後御備物、御肴、くめ贈鯛、小串やき。	五	
1775	103			夕かた、吉之助來、夜食出す。	客	
1776	104			新土藏にて小酌、武兵衛・徳次郎一緒ニ吞。	客	
1777	105		10	學問所にて御用之物御認、御辨藤、八つ過御歸。	他	
1778	106		15	御備物、御干菓子・到來物、御茶・京來。	望貴	
1779	107		17	府中半藏、そば切贈、御書の禮敷。	貴	
1780	108		20	餘一、駒井へ遣す、槌之進不快見舞也、しやうでんぼ柿十爲持遣す、甚平供。	贈	
1781	109			春耕・要次坊主來、酒出す。	客	
1782	110		21	高橋忠平來、夕飯出す。	客	
1783	111		25	甘酒つくる。	調	
1784	112		29	室屋善九郎來、酒出す。	客	
1785	113	10	朔日	御備物、御肴ゑび。	朔	
1786	114		9	酒一斗、是ハ所々へ分つ、味噌、銀目四匁・馬上ちやうちん・うけ織もめん、兩女へ・じゅ袴、三匁八分づゝ、三匁四分切・銀札五匁、じゅ袴半袴、守巾着道工・じゅ袴袴、忠海・袴地貳匁七八分づゝ・はき焼酒猪口、石井・砂糖一曲、龍山・口へに半切・其外ハしらず。	贈	
1787	115		14	進藤へ、古もめん羽織をもて爲持遣す、ニゴミ・葉の飯ことづける。	贈	
1788	116			初更前、矢助竹原より歸、昨十三日御認御狀來、餘一書狀日記來、鯛一尾・飯・鮓等贈來、濱焼四・ぼら、京ばし筋へ行物、そば切も贈來。	貴	
1789	117		15	御備物相濟、御菓子築山驢の品、佐一郎をそく來。	望貴	
1790	118			夜、徳之助・庄五郎、赤壁の夜とて來、酒出す。	客	
1791	119		16	貞松へ、きすご・めばる、見廻に遣す。	客贈	
1792	120		17	進藤、文をこす、あげ物もらひにおこす。	贈	
1793	121		20	小ぐらやぶね書狀、饅頭來る、久井や十五日・小ぐらや十八日。	貴贈	
1794	122			進藤へ見廻遣す、菜・ひりうづ・くちなし飯。	贈	
1795	123		21	久井やぶねへ文出す、長上下・古御わた入、餘一新出來着物きぬ・古ばかま、いはしぬか漬出す。	贈	
1796	124			夜、萬四郎至、酒出す。	客	
1797	125			竹原、藤四郎舟、石炭六俵、さつまいも届來、すへ贈。	貴贈	
1798	126		22	六一來、夕、同方よりいが餅・小鯛贈。	貴	
1799	127		23	青木へ、柚もらいに遣す、既に爲持贈とて、つゝみて有しをとり歸る。	貴	
1800	128		24	室屋小兵衛見廻、井になまこ七、見廻に贈。	贈	
1801	129		25	室屋より、なまこ七贈。	貴	
1802	130			進藤より、重之物・ゑび相添贈。	貴	
1803	131		26	りさ、見廻に來る、いが餅持參、ちゝぶ、のしやへことづける。	貴	
1804	132		27	吉兵衛ぶね、明早朝出帆、書狀出す、菜づけ・柚ねり遣す、同便にて、佐一郎・需三郎、竹原へ往、二更前乗船。	贈	
1805	133			風航より肴贈、大くち・かれい。	貴	
1806	134		28	加藤より留守見廻、柴肴贈來。	貴	
1807	135		29	金春傳九郎より、三原大根三贈。	貴	
1808	136			京菜とゝのへ、つける、貳匁三分分。	調	
			晦日	竹原より御狀至る、花屋禪藏便、同人より鯛一尾贈。	貴	
1809	137			吉之助見廻、一同に夜食酒出す。	客	
1810	138	11	朔	御備物御調、御肴、花屋贈所、萬四郎來拜、六一・文助・甲三郎。	明客	
1811	139		4	直次世話、大こん千五百持來。	調	
1812	140			駒井より、押ぬき鮓贈。	貴	
1813	141			京橋筋、いりこ・くねんぼ贈。	貴	
1814	142		5	大こんそろへる、靜手傳、多門かゝ・ぢぢ手傳、貞琳同。	調	
1815	143			玉山堂より、こち一・あづき餅贈。	貴	
1816	144		6	多門ぢゝ甚平、大こん・あみ干。	不	
1817	145		9	夜、到來の鯛ツクリ、鮓吸物、門人衆に酒吞す。	貴	
1818	146		12	肯心院來、酒飯出す、多門かゝ手傳。	客	
1819	147		17	権次郎、出勤より歸、龍仙寺へ行、酒に酔、不鹽梅にて、室小より駕籠にて歸、丑の刻過。	健	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1820	148		20	築山へ、いりこ十・酒壹樽贈、竹原みやげ・屋敷がへ祝旁。	贈	
1821	149		21	瀬戸太良平來、いりこ・小豆贈。	賞	
1822	150		22	進藤より、茶のこ贈來。	賞	
1823	151		24	味噌たき、豆七升。	調	
1824	152			伊助來、雉子料理。	調	
1825	153		25	四郎贈物酒賞翫。	賞	
1826	154			喜左衛門・林次、同時來、酒出す。	客	
1827	155		26	餘一、駒井へ見廻に御やり、同所にて飯くひ歸。	他	
1828	156		27	大谷・青野・蒲生・進藤招、酒出す、三原大こん ふろふき・雉子なべやき等也。	客	
1829	157		29	夜、吉川父子孫招、茶漬・酒出す。	客	
1830	158	12	朔	進藤へ、にしめ遣す、伊助拵る。	贈	*19
1831	159		2	貞松方へ人遣す、にしめ少・茶巾十五爲持遣す、同人、兩三日起居るよし。	贈	
1832	160			夜、門人衆へ酒進、到來之酒。	客	
1833	161			肯心院來、中飯出す。	客	
1834	162		3	室喜來、酒出す、肴なし。	客	
1835	163		6	進藤・山田邊御勤、山田にて中飯御あがり。	他	
1836	164			夜、武助來話、酒出す、肴なし。	客	
1837	165		8	風航來、酒出す。	客	
1838	166			直十郎・久左衛門來、酒出す、大有同時來、同酌。	客	
1839	167		9	梶山へ、いりこ五遣す。	贈	
1840	168		15	晝後、萬四郎來、酒飯出す。	客	
1841	169			餘一、今中權六へ名代旁行、進藤にて食事。	他	
1842	170		16	傳藏に酒吞す。	客	
1843	171		17	傳藏酒飯し、直に舟に乗、晝時、尚平殘荷物、并歳暮祝儀物遣す、にんじん百・牛房二十本、にんじん代一匁七分・牛房二十五本にて一匁八分五厘、うら付二點、一匁八分づゝ。	贈	
1844	172		21	夜、渡部藤太初六人招、酒出す。	客	
1845	173			廣村武兵衛來、酒出。	客	
1846	174		22	伊助、暮前よびに遣、來、鳥料理する。	調	
1847	175		23	節分。	他	
1848	176			餅つき、多門の者夫婦・惠吉・新藏・門人衆、すこし手傳。	調	
1849	177		24	夜、久野招、小酌、吉川も不斗來酌。	客	
1850	178		25	かきもち、こしらへる。	調	
1851	179		26	夕、國泰寺副寺來、酒出す。	客	
1852	180			京邸より、鏡もち贈來る。	賞	
1853	181		27	京邸、かざみ餅・いもがしら十五。	贈	
1854	182			進藤、かざみ餅・じゅばん・ゑり・そで・きせる筒・さとう・足袋・鹽だい。	贈	
1855	183			駒井、かざみ餅・ぞうり二・酒一樽。	贈	
1856	184			加藤、からすみ。	贈	
1857	185			梶山、からすみ・小ぞうり一。	贈	
1858	186			手島、ぞうり二・はま弓・柴肴、竹原みやげふくみあり。	贈	
1859	187			室喜、鴨一羽・玉子二十。	贈	
1860	188			いばらや、酒。	贈	
1861	189			かいふや、かがみ餅・酒一樽。	贈	
1862	190			久野、酒一樽、屋敷がへよろこび。	贈	
1863	191			石井周藏、酒一樽。	贈	
1864	192			くめ、米三升・小餅十五。	贈	
1865	193			貞松、一匁五分・枝柿三十。	贈	
1866	194			寺川、さとう二匁半斤也。	贈	
1867	195		28	進藤より歳晚祝物贈、かざみ餅二・半切紙、餘一へ鹽ざかな一。	賞	
1868	196		29	三十匁辻、とゝのへ物覺 一、六分權次郎茶碗 一、拾四匁四分、淺黄ちりめん六尺・貳匁四分切 一、四匁、權次郎せきだ 一、一匁七分、同ぼくり 一、三匁三分、餘一せきだ 一、七分、菜ほう丁 一、四分、かまのふた 一、一分五厘、禮帖用やたて 一、一匁、どびん茶 一、六分、常用茶 一、五分、青茶 一、壹分五厘、しやくし二 貳拾七匁九分	贈	
1869	197	大30		夜、萬四郎來賀、酒出す。	客	
1870	198			深更、門人衆歳末祝儀申、酒出し、鶏鳴になる、濟て御備物、間なく雜煮備。	客	
1871	199			六一・直次・文助・甲三郎・武助父、枝柿十五遣す、子みな、くれぬうちに來賀。	贈	
1872	200			大坂より書狀至る、極月十月出、干しかぶら添。	賞	
1873	201			はしもと女・奥村幸右衛門、同書狀をこす、十二月十日認、氷梅三包・こんぶ五枚、其子の細工のよし、をしゑ二・梅のきん着贈來。	賞	
梅 颯日記		卷二十八	文化9年(1812)壬申		129日/173項目	
1874	1	正月元旦		御備物濟、御登 城、後かん酒。	朔	
1875	2			門人衆禮、寒酒。	客	
1876	3		2	直次・松六・幸右衛門・室小・河武、何れもかん酒。	客	
1877	4		3	加藤來賀、かん酒、佐一郎、同時同様。	客	
1878	5			茶佐、かん酒、ちよ、同時同様。	客	
1879	6		4	吉之助來賀、暮て也、かん酒、夜食出す。	客	
1880	7			駒井、寒酒、名井嘉七郎、通り。	客	
1881	8		5	三雲同様、かん酒。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1882	9		6	夜、書生へ酒肴すゝめ、鳥吸物・鯛三杯づけ・くみ重。	客	
1883	10			同方内室へ文遣す、海苔二把・いりこ十贈遣。	客	
1884	11		7	御備物例之通、御肴、ぶり酒煮。	他	
1885	12		8	府中〔の〕元迪・長谷川順八・徳二郎などに酒吞す。	客	
1886	13			たねのまゝ子與三郎來、それにも酒吞す。	客	
1887	14		9	夕かた酒御上り。	族	
1888	15		11	具足びらき。	調	
1889	16			多賀新次郎來、かん酒。	客	
1890	17			夜、吉之助・九介迎旁來、皆々一緒に食事、二更前、おミほ歸、引つゞき吉之助歸。	客	
1891	18		12	進藤・多門とせ來、酒吞す。	客	
1892	19			伊助來、鶴のわたぬく、同人酒吞す。	客	
1893	20		14	山田久次郎來、酒出す。	客	
1894	21		15	御備物相濟、御肴、串がい。	客	
1895	22			せん代、忤久藏つれ、禮に來、酒吞す。	客	
1896	23		16	照蓮寺來、雜煮出す。	客	
1897	24			伊助來、鶴料理。	調	
1898	25		17	夜、門人衆へ酒吞す、松廬にて。	客	
1899	26		20	そよ、子つれ來る、米二升・とき物遣す、餘一かすり糸じまおもて也。	贈	
1900	27		21	もよ、子つれ來る、うゐろう二持參、かちんヤキ、もてなす、子ニ柿枝十五遣す。	贈	本膳
1901	28		25	夜、靜、進藤へ年禮旁行、おしぬき鮓、砂糖一曲ミやげ。	贈	
1902	29		29	竹原より書狀來、婚禮祝物の禮、くじら・かうたけ少づゝ、御備物に來、飛脚便。	賞	
1903	30			直次る自分六十一賀餅、甲三郎持參。	賞	
1904	31	2	4	加母七十年賀被招行、少遅く御出、餘一、又遅く來る、昨日、酒一升五合入樽、賀詩・御たのまれの大字御やり、今日盃持參、神邊より來、海たけにて製熨斗添。	贈	
1905	32		5	御城御番バヤシ拜見に御出、晝過御歸、七十以上の者にハ、御吸物・御酒下さると。	他	
1906	33			三雲東馬病氣に付、見廻トシテ素麵十五把・松魚二本添、贈遣す。	贈	
1907	34		7	阿賀三兵衛倅來、酒出す。	客	
1908	35		8	秋山うばたね歸る、秋山に、のり二把貳匁・やぶれあはせ。	贈	
1909	36		15	夕、萬四郎父子來る、酒出す。	客	
1910	37			夜、水田恒太郎一備前の人來る、酒出す。	客	
1911	38		19	ミそのふ村新兵衛來る、茶・ヤキ米持參。	賞	
1912	39		21	夫婦・萬四郎夫婦・權次郎・佐一郎・おミほ・餘一・槌之進同席にて、饗膳になをる。	客	
1913	40			酒一斗餘・米貳斗程入。	購	
1914	41		25	堀江來助入學、酒肴送、其品にて盃事。	賞	
1915	42		27	おたか來、きぬ切・こぶ少・ふるつぎ遣す。	贈	
1916	43			加藤へ贐に、足袋二・酒一樽遣す。	贈	
1917	44			矢木幸右衛門へ酒一樽、江戸行歡。	贈	
1918	45		晦日	草之餅製。	調	
1919	46	3	朔	御禮なし、御備物相濟、御肴、めばる・いりこむしり。	朔	
1920	47		2	靜、風邪養生の爲、風呂後、酒たうべる。	健	
1921	48			松井孫介來かゝり、酒吞す。	客	
1922	49		3	御禮御登 城後、御備物、御肴、大貝煮しめて。	五	
1923	50			萬四郎父子、遅く來、酒飯す。	客	
1924	51			夕、弟子衆と御酒宴。	客	
1925	52			武兵衛・多門の者、酒吞す。	客	
1926	53		6	夕、松廬にて小酌、武助來、吞す。	客	
1927	54		15	くめ、約束の保命酒 ^ロ 羅ひに來。	贈	
1928	55		16	りさ來、酒吞す。	客	
1929	56			晩方、直次來、酒ノマス。	客	
1930	57		19	牛尾妻來ル、飯ス。	客	
1931	58		20	おしぬき〔鮓〕、京邸へおくる。	贈	
1932	59		24	大有來、酒出す。	客	
1933	60		25	夜、管喜藏・伊與西條人、大有同伴來、酒出、酒肴贈。	客	
1934	61		27	忠平來、酒飯、今ばん乗船、尾道へ行。	客	
1935	62		28	榊屋周助來、酒飯す。	客	
1936	63	4	朔	御備物、御酒、榊屋贈物、御肴、いか・いりこ。	朔	
1937	64			榊屋周助に飯出す。	客	
1938	65		2	輪講の衆中へ、到來物振舞、鮓也、伊助拵。	調	
1939	66			京の人吉ら作なる者來り、酒出す。	客	
1940	67		9	大坂蜂友・〔六合庵〕玄蛙來、酒出ス。	客	
1941	68	5	3	粽まく、夕、京邸・進藤へ爲持遣ス。	調	
1942	69		5	御登 城後、御備物、御肴、いか山椒あへ、數馬父子共・吉川父子共・直次父子來賀、武兵衛・くめ。	五	
1943	70			副寺來り、酒出す。	客	
1944	71			晩方、門人衆と、おもてにて小酌。	客	
1945	72		11	萬四郎來、昨晚、在る歸る、酒出す。	客	
1946	73		12	吉之助來る、三上梅の返禮、中飯出す。	客	
1947	74		14	伊助方、夜、小豆・煮干・砂糖添遣ス。	贈	
1948	75		15	御備物、御菓子、庭前枇杷・干菓子、萬四郎來、御備物。	望	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
1949	76		17	夕、西樓にて小酌詩會、久野・吉川。	客	
1950	77		21	鯛到來、鮓こしらへ、小池留守へ遣す、進藤へも少遣す。	客	調
1951	78			西樓にて小酌。	客	
1952	79		24	夜二更頃、萬四郎來、酒出し談し。	客	
1953	80		28	吉之助來る、同方談し事、夜食出す。	客	
1954	81			室屋喜右衛門來る、酒出す。	客	
1955	82			静、昨日夕快、食味常之通ニナシ。	健	
1956	83		29	慈光院來、夜食にうめん出ス。	客	
1957	84			室小に酒出す。	客	
1958	85	6	朔	御備物、御酒、室居贈所。	客	朔
1959	86			夜、萬四郎來、酒出す、直次相伴。	客	
1960	87			ゆうせん來、酒のます。	客	
1961	88		5	聖光寺來訪、酒出す。	客	
1962	89		6	久太郎書、竹原行、見せ來る、五月二十七日出、同二十六日、仁賀や便の由聖光寺便、同僧來、葛湯出す。	客	
1963	90		7	夜、萬四郎來、酒出す、武助同様、吉之助來、同酌。	客	
1964	91		11	西の刻、慈光寺へ贈物、菓子箱・末廣・白粉、今ばん出船の由。	贈	
1965	92		12	權次郎へ手紙にて、伊助と米一斗拜借。	他	
1966	93		13	しはばと來ル、酒桶一つ遣す、梅干用の由。	贈	
1967	94		15	御備物、木會氷餅。	望	
1968	95		19	進藤へ煮豆こしらへ、見廻に遣す、後室全快。	贈	
1969	96		21	星野周平、辨藤にて夕方迄居る、此間、親父たのむよし也。	他	
1970	97		22	進藤と法事餅贈來。	貰	
1971	98		24	八時半頃と、ちやんこにて、川上へ御出、武助餞別之趣、久野も行。	他	
1972	99			夜、萬四郎來、酒酌、二更斗、舟とよびに來、同人も一緒二三丁目へ行、水邊賑ハしく、月出て歸。	客	
1973	100		25	暑氣見廻に、通る人多し、酒出すもあり。	客	
1974	101		29	晝迄の内、吉之助來る、はや夕食出し、歸、同方法事用の品々戻す。	客	
1975	102	7	朔	御備物相調、御肴、さ하라粕漬、忠平贈物、御酒、大坂鐵屋重平贈伊丹酒。	客	朔
1976	103			餘一、例の方角へ禮に行、駒井へも行、同方にて夕飯たべ歸る。	他	
1977	104		13	萬四郎、夜見廻、梶山兩度、九介見廻、同人と鮓もろふ。	貰	
1978	105		14	京邸へ、さしさば・小豆、進藤へそうめん二十把、跡と酒少、かいふや、酒、おくめ米三升、牛尾仁藏へ酒一樽。	贈	
1979	106			多門へ酒一樽。	贈	
1980	107		15	武兵衛・くめ・貞琳・た門かゝ、ノミクヒ。	客	
1981	108		16	追々御快、御夜食初に飯茶漬也、夕、元亮見廻。	健	
1982	109		17	御快、朝かゆ、晝干うどん。	健	
1983	110		18	御快、朝かゆ、晝二度煮飯、六一贈ふな・せごし。	贈	
1984	111		20	久太郎と砂糖おこす、金づたへ。	貰	
1985	112		22	喜三郎・聖光寺、よび二遣、聖光寺不參、萬四郎不斗來、同酌。	客	
1986	113	8	朔	御登 城、御備物相濟、御肴、かまぼこ、御酒上さけ。	客	朔
1987	114		4	御出勤、夕、蓮光寺來る、跡と玄蛙來、酒出す。	客	
1988	115		6	加母へ、いりこ煮て、見廻に遣す。	贈	
1989	116		10	權次郎、中飯前歸、行水して又行。	他	
1990	117		12	丈四郎子、萬四郎江戸行二付酒遣す。	贈	
1991	118		13	吉之助見廻、夕飯振廻、竹原祭の印、ナマス・吸物にて出ス。	客	
1992	119		23	鮎到來、久野招、夜食クハス。	客	
1993	120	9	朔	餘一、例ノ方角へ禮に行、進藤にて飯ス。	他	
1994	121		7	米半〔竹原米屋・吉井半三郎〕來、酒出す、初て見。	客	
1995	122		9	御登 城後 御備物、御肴、漬やき、米半贈物。	客	
1996	123			必正樓にて小酌。	五	
1997	124			武兵衛・伊助・貞琳・多門かゝ酒客。	客	
1998	125		10	林はゝ來問、夜食出す。	客	
1999	126		15	御備物、御菓子、京と到來物、佐一郎手傳。	客	
2000	127			夕飯頃と、國泰寺へ遊行、映雪同道、宮田妻誘ふ、松井隠居跡と來る、當座よミ歸、上人留守。	他	
2001	128		16	二もんじや母來見、茶にて歸。	客	
2002	129			四郎へ餞別の印、膳部出す。	客	
2003	130		17	夜、坂井招、小酌。	客	
2004	131		25	駒井安産歡遣す、酒一樽・松魚三、文添。	贈	
2005	132		26	春餅・山崎屋來、酒出す。	客	
2006	133	晦	日	りさ來、くめ・貞琳、一同二飯食す。	客	
2007	134	10	朔	御備物、御肴、鱸小串。	客	朔
2008	135		3	夕、六一來り、酒出す。	客	
2009	136			夜、萬四郎來、酒出す。	客	
2010	137		6	忠平來、中飯出す、夜食たべ歸る。	客	
2011	138		8	京菜一桶漬る、手作也。	調	
2012	139		21	江原與兵衛來、酒出す。	客	
2013	140		24	月瀬桂なるもの來、出来合出す。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2014	141		25	奥平内幾齋來、酒出す。	客	
2015	142		26	青木・築山・龍神・寺川招、伊助料理。	調	
2016	143			旅客二人來、菓子・茶出す。	客	
2017	144	晦日		風航・山崎屋來、酒出す。	客	
2018	145	11 朔		御備物、酒肴物共到來、萬四郎父子來拜。	客	
2019	146		2	夜、萬四郎來、有合酒出す。	客	
2020	147		3	夜、久野話に來、酒出す。	客	
2021	148		9	宮島清右衛門來、酒出す。	客	
2022	149			吉川安産見廻、にしめ・小豆飯遣す。	贈	
2023	150		14	豊後の書生〔館林萬里?〕神邊を傳書、夕來、夜に入歸、酒飯出す。	客	
2024	151		15	御備物、せんべい、萬四郎來、佐一郎ハタに來。	望	
2025	152			映雪來、酒出す、當座よむ。	客	
2026	153		16	御出勤、國前寺へ御參詣、樂々七廻忌御墓參、喜太郎同道、□方にて中飯御上り。	族	
2027	154		20	から漬大こん、松六世話にておこす、十五夜にて千百。	調	
2028	155		21	菜あらひ、つける。	調	
2029	156		22	漬大こん、あらふ。	調	
2030	157		25	味噌仕込、豆七升・こうじ六枚・鹽二升二合。	調	
2031	158		27	吉之助、夕方來、酒飯出す。	客	
2032	159		28	夜、久太郎・順八まねき、でんがく・干うどん・酒出す。	客	
2033	160		29	萬四郎來、酒出す。	客	
2034	161	12 朔		御備物、御肴、春餅を贈ぬか漬相濟、佐一郎來、夕、萬四郎來。	客	
2035	162		11	海武來、酒吞す。	客	
2036	163		12	禎次、江戸ミヤげ持參、酒ノマス。	客	
2037	164		13	夜、萬四郎招、鯉の料理出す、駒井・進藤、跡を來、同飲食す。	客	
2038	165		15	御備物、菓子、いなばやうかん・金山五種糖。	望	
2039	166		17	竹原へ、にんじん・紙類出す。	贈	
2040	167		22	夜會講ニ來衆中六人招、酒食出す、鴨ミソ吸物・鯛センバ・太平菜・ぬきみ・からしあへ・まぐろ・とうふ・せり・なべやき・かきめし。	客	
2041	168		25	餅つき、手傳新藏・惠吉・多門夫婦・門人達、ミナ少しづゝ手傳。	調	
2042	169		27	夜、吉之助、歳末禮に來、鴨の吸物にてもてなす。	客	
2043	170		28	門人衆、御居間にて話、茶をにる、もちやきて。	客	
2044	171		29	松井隱居、晩方來る、數馬・萬四郎・佐一郎、歳末禮に來、酒出す。	客	
2045	172			門人衆歳末禮、深更酒宴、東しらみニ至る。	客	
2046	173			鐵砲丁 かゞみもち・かづのこ○加藤留守 ちせに、べつに・ともに、ぞうり・枝柿三十○流川 かゞみもち・かづのこ・砂糖・たばこ入・おまきへ二匁・九介へ二匁○やげん堀 かゞみもち・うら付日和下た・濱弓・酒一樽○坂 昇進歡酒一樽○竹本 同○石井周藏 鴨一羽○入江要介 酒一樽歡○梶山 いりこ、小也・すすき筍・わけかけ○手島 うら付二・枝柿二十○かいふや かゞみもち・酒一樽○多門酒一樽○くめ 白三升・もみ十五・のり一把○林 枝がき二十五・黑豆一重・わた入頼謝フクミ○吉川 蠣一鉢・濱弓○いばらや 酒一樽	贈	
梅颯日記		卷二十九	文化10年(1813)癸酉	〔缺本〕	*20	0日/0項目
梅颯日記		卷三十	文化11年(1814)甲戌	〔缺本〕	*21	0日/0項目
梅颯日記		卷三十一	文化12年(1815)乙亥			156日/205項目
2047	1	正月元旦		御歸後九つ過頃、御備物例之通相調、萬四郎來拜、かん酒・雜煮、一同に祝。	朔	
2048	2		3	佐一郎・數馬・太郎三、かん酒。	客	
2049	3			好右衛門・禎二・軍藏・一作・武兵衛・佐平次、酒吞すもあり。	客	
2050	4		5	玄珠、酒出す。	客	
2051	5			夜、伊助來、酒吞す。	客	
2052	6		7	御備物相濟、御肴、鹽鯛やきて、遅く萬四郎來拜。	五	
2053	7			常太郎來、夕飯す。	客	
2054	8		9	南へ晝前を御出、同方にて御夕飯御上り。	族	
2055	9			餞に小郎行招、伊助料理。	客	
2056	10		11	學問所御出勤、直に兵馬へ御勤、同方にて夕食御上り、進藤・加藤・梶山御勤、御歸。	族	
2057	11			具足びらき。	調	
2058	12		12	金子徳之助妻、禮に來、盃事。	客	
2059	13		13	日の内、常太郎來、飯す。	客	
2060	14		15	御備物相濟、御肴惣太郎漬、佐一郎來、手傳、千藏父子來拜。	望	
2061	15			伊助・もと來合、酒吞す。	客	
2062	16		17	大野木主馬・三谷十五郎・道家大三郎・木村主膳御招、伊助料理、晩過九つ前迄。	客	
2063	17		18	西山廉藏初來、酒飯す。	客	
2064	18		19	夜、廉藏來話、飯後餅出す、御按腹タノム。	客	
2065	19		20	雜煮にて喜藏・權之進・勝登招。	客	
2066	20			夜、伊助來、酒吞す。	客	
2067	21			京々書狀、祝もちみ來、昨日の事。	賞	
2068	22		21	市川野右衛門・山田大次郎・飯田完藏招、伊助差問、手料理也。	客	
2069	23		22	伊助來、同方客仕に付、道具かり、料理物少々遣。	調	
2070	24		23	おみほ、よびニ遣、西山に見てもらふ、同人日暮に歸る、診察、同人宿、雜煮出す。	客	
2071	25		24	竹原吉兵衛ぶねへ出す物、酒五升・うど五本・わさび・干かぶら・葉ぶき・鏡餅。	贈	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2072	26		25	夜、御客牧野・櫻井・久野正次郎、其外等也、伊助料理、九つ頃立座。	客	
2073	27		26	竹葉上人來、酒出す。	客	
2074	28			竹原多次郎來、酒出す、夜深て也。	客	
2075	29		27	御出勤、御備、寺川へ御訪、中飯同所にて御上り。	族	
2076	30			夕、千藏來、夜食出す、後少話歸る。	客	
2077	31		28	餘一乳母、出入ゆるし、今日初て來、伊助中人也、同人も來、酒など吞。	客	*22
2078	32		29	おみほ、廉藏油菜づけ、心よく、三折藥、昨日夕用ひ、夜前曉近、はらいたみ瀉、むねあしく、きみずなど吐、難儀の所、今日ハ居り合候事由來。	族	
2079	33		晦日	夜に入、又々喜太郎・數馬來、餅やきて出。	客	
2080	34	2	朔	京々書狀、尾張やキ茶碗・酒ヅキ届、久兵衛歸便、正月十五日認。	貴	
2081	35			竹原より、御法事餅一重贈來、二十三日出。	貴	
2082	36		3	久野・青木・中村元亮等、跡に居る、夜食出す、彦助・克己同様。	客	
2083	37		5	千藏・數馬、夕方話、夜食出す。	客	
2084	38		7	御墓參、同所にて中飯出る。	族	
2085	39		9	せん代來弔、家來共迄、一汁二菜ほどにてたべさす、多門夫婦共。	客	
2086	40		10	京・大坂々書狀來る、さかい邊書狀、霜月、剛藏悔書・高藏家督歡等也、お悌文、年始狀、干かぶら贈來。	貴	
2087	41		11	雪翁・駒井、晩方、六一見廻、酒吞す。	客	
2088	42		13	數馬見廻、夜食出す。	客	
2089	43		14	蕎麥到來に付、喜藏・敬助・誠齋・門人達へ振廻。	貴	
2090	44		16	蕎麥到來、久野・道味よぶ。	貴	
2091	45			神邊門田庄三郎[朴齋]來、酒・にうめんなど出す、夕方歸、落合に宿、初て來、蕎麥一重贈。	客	
2092	46		17	葬儀の節、世話に成候人々招、御歩行士分久野初六人、太郎三・薄田八郎ハ差間來ず、伺公ぐミ十一人、伊助料理、玉山堂手つだひ、大すかうばよび手傳、夜宿。	調	
2093	47		19	千藏來、夜食出す。	客	
2094	48		20	萬四郎・誠齋・傳九郎來話、にうめん・酒出す。	客	
2095	49		21	夕、雪翁來、夜九頃迄話、夜食出す。	客	
2096	50		22	府中半藏へ一禮に、新藏遣す、十五匁菓子添遣す。	贈	
2097	51		26	中村元亮招、到來の蕎麥・肴二三、萬四郎同話す、伊助料理。	客	
2098	52		29	駒井、千藏の事に付、晩方來、又南へ相談に行、此方にて夜しよく出す。	客	
2099	53		晦日	勘吾、朝飯頃出立、御見廻文、前夜したゝめ、お唯方へ遣す。	他	
2100	54	3	朔	御備物相濟、御肴、めばるいりムシリて、萬四郎父子、遅く來り拜。	朔	
2101	55		3	御登城後、御備物、御肴さゞい大貝、佐一郎來、手傳。	五	
2102	56		7	夜、照蓮寺來、かたくり・そうめん・酒出す。	客	*23
2103	57			しのだも、二月十二日出書、干かぶら添至。	貴	
2104	58		9	中村・堀江見廻、小兒毒よくさバけしよし云、乳につける、乳持、好右衛門せ話にて、昨夕々來居。	育	
2105	59		11	小兒名付、[三千三]産婦の方へあづき飯一重・はまぐり一鉢、小徳利三酒持爲遣す。	育	
2106	60		13	小兒七夜、伊助朝の内來、少々料理こしらへ置。	育	
2107	61			中村・堀江・とり上げゞへ酒・吸物・硯ぶた出す。	客	
2108	62			南多門へ小豆飯・酒少・ナマス遣す、[多門]夫婦のものゝ、祝儀遣す。	贈	
2109	63			うばかゝへる、切米一ヶ月百六十匁。	育	
2110	64		16	夕方、落合敬助餞別、蛤吸物・うなぎ飯・田樂・さかな一種、門人達・喜藏一同。	客	
2111	65			誠齋來、酒出す。	客	
2112	66		21	四十九日、餅つき、答禮にくばる、伊助手傳、矢助やとひ。	調	
2113	67			くバリ物、もち米六斗五升、下地有米共打交、白米ニメ六斗二升餅に成る、六十一軒也。	調	
2114	68			六一・武兵衛・石儀・玉山・軍藏、茶のこの禮に來る。	他	
2115	69		23	喜藏々白米三斗おこせしと、新藏云、自分扶持也。	他	
2116	70		24	晝飯時、玄蛙來、酒出す、誠齋來かゝり同酌、半日ばかりツブス。	客	
2117	71			彦助見廻、夜しよく出す。	客	
2118	72		25	萬四郎夕方來、竹原々うぶき、ことづかり持歸る、酒出す。	客	
2119	73			上坂新助へ御申遣、夕七つ過來る、酒肴二三・干うどん饗應す。	客	
2120	74		29	新藏、在夕歸、うき鯛みやげ。	貴	
2121	75	4	朔	御備物相濟、萬四郎父子・常太郎來、御肴、うき鯛さしみ。	朔	
2122	76		3	正善坊隱居來訪、茶菓子にて、頓て歸る。	客	
2123	77			大須かうば、茶のこ禮に來る。	他	
2124	78		6	餘一、嫡子に仰付被、彦介とまりの歸、直に來、飯出す、歸又來る、青木八十郎・築山爲藏・久野喜三郎・寺川庄助・駒井父子、是ハ朝々來る、井上權之丞・熊田長次郎・伺公組・好右衛門・軍藏・伊助勿論也、上坂新助忝衆太郎。	客	*24
2125	79			御下城早々御備物、御酒・御肴・鯛さし身、佐一郎手傳。	祭	
2126	80		8	夕方、西樓にて田樂共御上り、おミほ製、夜に入、進藤母來る、饗應す、夜半頃、おミほ一同に歸。	調	
2127	81		9	朝四つ頃、加母來訪、八頃迄話、夕飯出す。	客	
2128	82			西樓にて少々御食事、久太郎・餘一達。	族	
2129	83		10	到來肴にて、青木・築山へ鮓こしらへ贈。	調	*25
2130	84			紅勘々人やとひ、伊助手傳にて、夕方、彦介來、夜食・酒出す。	客	
2131	85		13	到來物にて鮓こしらへ、素讀ニ來る衆、植木兵二郎・中村直・星野修・堀江來、矢木忠・良吾・餘一相伴。	貴	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2132	86			彦介、七頃来、夜食出す、五つ頃過歸。	客	
2133	87		15	御備物相濟、御菓子、備前之倉田定五郎と贈せんべい、御茶、南の手製。	望	
2134	88			到來肴にて鮓つけ、牧野留守へ贈。	望	
2135	89		17	御忌日御備物相調、萬四郎并かね來拜、おかね晝飯後迄居る。	他	
2136	90		18	水野様御止宿、かこ町にて御饗應に付、御伽ニ御出勤の達し、昨日来る、晝前と御出、御かご、麻上下着、袴持参の事、御迎暮頃。	族	
2137	91		20	進藤と幕持爲おこし、衣類等の事、不埒有よしにて、文にて申し候様、おミほと申し、だんへ理くつ申遣す、夜かよ使にて、同方へ鮓少々・小鯛一尾おくり遣す。	贈	
2138	92		21	久野、差上物の事に付來、夕飯出す。	客	
2139	93			餘一、學問所へ出る〔始メテ入學ヲ許サル〕藤村松庵、子つれ來る、酒出す。	客	
2140	94		24	のぼりたてる、祝しに家來に酒吞す。	客	
2141	95		25	藤村のために書畫成被、藤村父子・萬四郎・良吾・貞吉・喜藏・直太郎・修平・梶山・松井孫介・小倉泰藏・進藤彦介も來り見る、酒肴・夜食出す、伊助料理也。	客	
2142	96		28	伊助てり肴料理、酒ノマス。	調	
2143	97	5	朔	御備物相濟、御肴、鯛小ぐし。	朔	
2144	98			餘一、禮に行、進藤にて夜食す。	族	
2145	99			彦介禮に來、飲食。	客	
2146	100		2	夕と粽こしらへる、もち米八升・たゞ米四升粉にひき、内とり粉に少とる、伊助手傳、儀兵衛・徳三郎來かゝり、少手傳。	五	
2147	101		3	處々粽くばる、十四五軒。	調	
2148	102		4	彌一入門、酒肴吸物出す。	客	
2149	103			夕、同人同道の人二人來、酒出す、三宅兼吉・小野泰藏、備中の人。	客	
2150	104		5	御登城後、御備物ハ御肴鯛さしみ・きうりあしらへ、南父子來拜。	客	
2151	105		6	御客〔以下來客、春水七十壽宴〕、七つ時頃と、青木・築山・龍神、萬四郎取持、夜四つ前立座、築山早々立座、伊助見合、紅勘と料理人來る、三五仕。	調	*26
2152	106		9	静、氣色よし、いまだ常にふくせず、食味あしく、晩方とかいふやへ見廻に行。	健	
2153	107		12	かよ宿へ行、夜食前、かね頃歸。	他	
2154	108		15	御備物、御くはし、大覺贈物。	望	
2155	109			餘一、晝前と禮に行、進藤にて食事。	族	
2156	110		18	晝後客、佐一郎・千藏父子、梶山・伊助ハ差問あり不参、手料理本膳也。	客	
2157	111		19	御歸城御早きと申事にて、早朝御出勤、御供かへり、又行時御辨藤持参、御歸、吉川へ御訪。	族	
2158	112		20	吉川來見、有合肴にて酒出す。	客	
2159	113		24	江戸より書狀來る、吉川便、盃贈來、菓子同様、備書に、三月・四月十八日認、おもえ年始ふみ、古あい白小袖添、おもえ書、彌生十七日認。	貴	
2160	114		27	萬四郎・數馬・彦助家内・南家内一同、膳ニ居る、吉川父子遅く來、膳出す。	客	
2161	115			家内十三人、外と來家來かけ十九人、伊助料理、三五も來る。	調	
2162	116	6	朔	御禮御登城、御下り御備物、御肴、あぢかす漬、常太郎來、手傳。	朔	
2163	117			數馬來、晩飯出す。	客	
2164	118		2	もと、あつらへ糸持來、飯す。	客	
2165	119		8	伊助たのミ、赤華そば、うたす。	調	
2166	120		9	國泰寺とうどん贈、夕、門人達一同御食、萬四郎來かゝり、同様食す。	望	
2167	121		15	御備物相濟、御菓子かすていら、南父子來り拜。	望	
2168	122		29	御生日にて料理物こしらへ、家内一同祝。	族	
2169	123	7	朔	御禮御登城、佐一郎來、御備物手傳、御下り後也、御肴、あぢ鮓づけ。	朔	
2170	124		3	夜、進藤と手紙來、梅二斗代貳匁四分遣。	購	
2171	125		7	駒井、夕方來、夜食出す。	客	
2172	126		8	夕、彦介來、夜食出す。	客	
2173	127		11	夜、讃州僧來、酒・干うどん出す、山口恕介同道。	客	
2174	128		12	夜、萬四郎來、吉川も來、酒出す、鳴鶴至。	客	
2175	129		17	今曉、予、吐瀉、キウビ痛ミ難儀、朝ニ成快、終日不食。	健	
2176	130		21	夜に入、進母・克己來、取あへず饗應、深更迄話、一同に歸。	客	
2177	131		22	風航、見廻に來、酒出す。	客	
2178	132		23	静少々不例、サムケ、フシへいたミ、身タユシ、頭おもくいたむ方、食味ナシ。	健	
2179	133			萬四郎、夜來、松廬にて話す、酒出す。	客	
2180	134			大工に酒吞す、焼肴鯛。	客	
2181	135		26	普請はしらだて、酒、大工ニ吞す。	客	
2182	136		28	京暑狀、御酒づき小至、七月九日・二十日出也。	貴	
2183	137		29	誠齋來、干うどん一緒に御上り。	客	
2184	138	8	朔	御登城後、御備物、御肴、あなごつけ焼、佐一郎手傳、萬四郎遅く來拜。	朔	
2185	139			千藏來賀、夕飯出す。	客	
2186	140			數馬來、酒出す。	客	
2187	141			夕かた、新藏宿の後、家來、酒出す。	客	
2188	142			夜、南姑・嫁共來、茶ぐはしちそう。	客	
2189	143		2	吉川三次郎歡に來、酒出す。	客	*27
2190	144			家來共・大工などへも酒肴遣す。	贈	
2191	145		6	大すかうば、晩方來、酒引一祝し贈、夜に入歸。	贈	
2192	146		7	築、此間の挨拶に訪、茶を入出す。	客	
2193	147		14	御氏神祭にて、中飯に膾・煮物にて祝ふ。	祭	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2194	148			夜、詩會、久野・金子徳之助・藤井源次郎・坂井・千藏父子・直太郎・修平・門人三人・喜藏・小郎也、飲食の事、伊助問にて、幸衛門来り料理、鶏鳴に至。	客調	
2195	149		18	普請あらまし仕舞、大工に酒吞す。	客	
2196	150		23	詩會御出勤、夕飯後、餘一上學。	他	
2197	151		晦日	夕かた彦介歸、夜食出す、夜、誠齋來話。	客	
2198	152	9	朔	御登城、早朝御理髪、御下城後御備物、御肴、ゑび、佐一郎來手傳、千藏同様。	朔	
2199	153		8	宗谷、夕方來訪、酒出す。	客	
2200	154		9	御登城後御備物、佐一郎・千藏手傳、御肴、あなごつけ焼。	五	
2201	155			千藏・伊助、晝いはふ、夕飯後寝る。	客	
2202	156		11	南父子姑婦・おみほ・千藏・常太郎、一同膳ニスハル。	客	
2203	157			直太郎・修平・權之進・忠藏・六一・幸右衛門・九右衛門・多門夫婦・手島妻・二作、遅くりさ不斗來、飲食して歸、夜、克己迎旁來、飲食。	客	
2204	158		12	夜、中村元亮まねき、朱案にて馳走、門人達取持、伊助料理。	客	
2205	159		15	御備物相濟、御菓子ギウヒ、南ふきんかん來る、相添備へる。	望	
2206	160		18	又々にしめ等こしらへ、居合す。	調	
2207	161			竹原客へ、中飯の時酒出す、夜、又出す、肴濱やき。	客	
2208	162		25	岡忠左衛門、夕方來、酒飯出す、二更頃迄話、歸る。	客	
2209	163		27	夜、米や三郎來、鯛二尾酒引贈。	客	
2210	164		28	藤屋へ忌中見廻遣す、饅頭三十。	贈	
2211	165	10	朔	御登城御帖に成る、御下已後御備物、御肴、あなごやき。	朔	
2212	166		2	嶺雲院にて良吾・貞吉・喜藏餞別の詩會、備中岡忠左衛門も御まねき、南父子・太郎三・徳之助・嘉祐・傳九郎・副寺等也、方丈菓子贈、伊助・玉山等料理、八つ過濟。	貫調	
2213	167			晝後、岡忠左衛門招、不斗峰子・映雪來、當座讀、夜いたく更る、伊助、朝食の事いたしくれる。	調	
2214	168		14	三千三、晩方迄、兩度乳吐、熱ナシ。	客	
2215	169		15	上田ふ、兼て御詩作の御禮使者來、贈物干鯛一折十・丹後絹五反、贈來る、又福山嘉内ふ手紙添、内々の禮、生肴五尾・唐墨贈被。	貫	
2216	170		17	萬四郎・村田・吉川・駒井・六一・金春見立に來、酒出す。	客	
2217	171		19	夜、南家來り、饗應す。	客	
2218	172		20	貞吉、木原やに別酒酌よしにて往。	他	
2219	173			竹原へ養生訓・辨藤かけご忘物遣す、米勘使。	他	
2220	174		22	貞吉・喜藏へ餞別、酒飯出す。	客	
2221	175		26	夜、お兼來、羽織すミ打たのむ、酒茶飯共出す。	客	
2222	176		27	夜、寺川内訪、下女料理にて酒飯出す、伊助、つき來。	客	
2223	177		29	佐十ぶねる、大濱大こん・小鯛二尾來、南へわかつ。	客	
2224	178		晦日	晝後、尚平、室小へ出居る所、竹原役人に會、直に御役所へ出、御用相濟、御代官所々へ御禮廻り、見藏と同道也、暮て歸、萬四郎來居、酒吸物にて祝す、常太郎・槌之丞も來。	客	
2225	179	11	朔	御備物相濟、御肴、玉子やきて、萬四郎父子・千藏父子來。	朔	
2226	180		4	松井隱居來、夜食出す。	客	
2227	181		7	夜、詩會、南父子・靜齋・傳九郎・千藏父子・金春、晝師誘引、好右衛門たのミ料理、鶏鳴客散。	客	
2228	182		10	竹原ふ御歸、日の内、家來一人上る、暮て御歸宅、武敏御同伴、尚平送來る、一同夜食出す、南父子・千藏父子・槌之丞・六一來賀す。	客	
2229	183		11	彦介・駒井・吉川父子來、彦介、夜食酒出す。	客	
2230	184		13	暮過、尚平乗船、酒二升・味噌二匁分おく。	贈	
2231	185		16	御出勤ふ、進藤にて御中飯、青木・寺川邊御出、御かご也。	族	
2232	186		17	夜、學問所御同勤御よび、酒出す、到來物、伊助たのむ。	客	
2233	187		18	夜、道味見廻、あんぶく、酒出す。	客	
2234	188			忠平來、大覺來、夜食出す。	客	
2235	189		20	夜、萬四郎、忠平共來話、酒出す。	客	
2236	190		22	から漬大こん、千調、代二十目。	調	
2237	191		23	夕飯後、御出勤、御かご、御備、南へ御訪、初更頃御歸。	他	
2238	192		24	夜、道味來、御あん腹、道味へ酒出す。	客	
2239	193		25	夜、武助來話、門人達共小酌。	客	
2240	194		28	味噌仕込。	調	
2241	195		29	夜、武助來話、傳九郎よびニ遣、來、酒出す。	客	
2242	196	12	朔	御登城なし、御備物可也に出來、御肴、鳥やきて、御酒キヅゴシ、佐一郎來助。	朔	*28
2243	197			夜、山田久次郎・道味來、酒出す。	客	
2244	198		3	夕かた、進藤・萬四郎父子・千藏父子・六一・伊助、夜食出す、三折藥居り合、見合之爲隙入、夜食出す。	客	
2245	199		6	日之内、風航見廻、酒出す。	客	
2246	200		15	駒井見廻、酒出す。	客	
2247	201		21	夜、萬四郎來、酒出す。	客	
2248	202		22	夜、六一・良吾・彌十郎・新藏詰、酒出す。	客	
2249	203		25	餅つき。	調	
2250	204		27	鏡餅、處々へ贈。	贈	
2251	205		晦日	忠平・需三郎・良吾通し、酒もちみ出す。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
梅麿日記 卷三十二				文化13年(1816)丙子	138日/192項目	
2252	1	正月	元旦	御同様の内、御快方、食事御進みの方。	健	
2253	2		3	吉川・道味、一同に來、御そばにてかん酒。	客	
2254	3			彦介、夕かた來、かん酒夜食出す。	客	
2255	4			順藏、酒吞す。	客	
2256	5		4	駒井來、かん酒。	客	
2257	6		5	佐平次・軍次に、かん酒ノマス。	客	
2258	7		6	廣清右衛門來、かん酒・かき飯振廻。	客	
2259	8			善九郎來、かん酒。	客	
2260	9		7	御備物例如相濟、御肴、小干あなご、千藏父子來、手傳。	五	
2261	10		8	節分。	他	
2262	11			忠治、豆ウツ。	調	
2263	12		9	七過頃々雪翁來、夜食出、夜二更頃歸。	客	
2264	13		12	飯田完藏來、酒出す、上の間にて。	客	
2265	14		15	餘一、御登城、四つ過歸、夫々御備物、御肴、鯛うす鹽やきて、南父子來拜。	客	
2266	15		18	京々書狀來る年頭六日出鏡もち砂糖來る、とみ・さよ、下る。	貴	
2267	16		21	玄蛙來、酒飯す。	客	
2268	17		24	曉御息切つよき方、餘一、御介抱、早朝起す、朝飯後々しづまり、晩方、又つよき方、夜、静か成方御藥、前法にもどる、三折見廻。	他	
2269	18		25	山中母來、夜食出す、當座一首づ。	健	
2270	19			二十目、とき米料。	客	
2271	20		27	安養院へ、餘一・尚平參詣、南父子・千藏・駒井父子・好右衛門・伊助・玉山・吉川武助、其外共家來かけ二十人餘、膳出るよし也。	購	
2272	21			南新婦・常太郎・克己、一緒に膳に居る、松廬にて。	他	
2273	22		28	大すかうば、昨日呼所不參、今日來、中村へ菓子取合贈、室小其外來る人に菓子遣。	客	
2274	23	2	朔	ヨリ米、同方へたのミ、來、御備物也。	贈	
2275	24			南へ鯛一・さゝゐ四祝贈、寺川へ加賀落がん・新渡猪口二贈。	忌	
2276	25		4	三千、少々不例、乳吐、下り有、春庵見廻、藥一貼。	贈	
2277	26		8	御氣促、少々おだやか成方ながらたえず發し、御しよく事甚減少、昨日々御鹽だち。	健	
2278	27		11	夜、みその、よびに遣、寒晒〔食用〕の事すゝめ。	健	*29
2279	28		18	御ねおきしげく、御夜しよく御すゝめ中、かゆ、吸物わんふたに一つ餘御上り。	健	*30
2280	29		28	徳太郎々、去る六日に、葛・砂とう等屆。	貴	
2281	30	晦日		家來へ、切米遣す。 七匁五分、新藏〇15匁、忠治〇四十匁、うば〇十六匁二分五、りよ〇十六匁二分五、とき〇十七匁五分、林平 十七匁五分、幸助	十 贈	
2282	31	3	朔	夕かた、道味來、予・徳太郎診察按腹、夜食後歸、徳太郎丸藥もらふ。	客	
2283	32		10	竹原より、蕎麥粉・もち贈來、ふとん四・おきごたつ・まくら戻し來。	貴	
2284	33			道味來、蕎麥振舞。	客	
2285	34		12	夕方、御行狀出來、同人へ渡す、萬四郎來、夜食す。	客	
2286	35		13	御靈具・御膳・椀・茶臺・御茶椀共、南へ持爲遣。	他	
2287	36			夜、好右衛門來、そばゆでなど世話。	調	
2288	37		20	良吾々飯料八十一匁出、當年分四十五匁ハ、此方々斷り受けず。	購	
2289	38		21	雨天に付、徳太郎・良吾出立延引、田樂やき、兩人に振舞、數馬來かゝり、佐一郎よびに遣、同じく食す。	調	
2290	39		24	平田和作、朝々來、夕飯後歸、乗船の由。	客	
2291	40			くまの木、昨々割仕廻、賃四匁八分五、十匁の木割ちん一匁四分づゝ、六匁二、内米代一升八合代引、六十五匁の積。	他	
2292	41		29	梶山へ酒出す。	購	
2293	42	4	3	夕、萬四郎見廻、酒出す、佐一郎、夕來、夜迄居話す。	客	
2294	43		4	もちの粉ひかす。	客	
2295	44		5	神邊々飛脚にて見廻、砂糖・素麵贈來。	調	
2296	45		6	答禮、茶のこもちつき、くばる、一石つきて八斗九升五合有、米六升五合、メ九斗六升、八十一軒程。	貴	
2297	46		8	餘一ノンド少々夜前來いたミ申遣、藥三貼 今日、處々喪中見廻來、茶のことゝのへ贈、四軒分。	調	
2298	47		13	彦介來、夜食す。	健	
2299	48			表にて、坂井父子渡部藤太・梶山・直太郎・修平、膳部四十一人前、すゞりぶた・濱焼・さしみ等也、都合入用五十四匁紅勘書付有。	客	*31
2300	49		18	南父子來、其外あれ見歡の客あり、好右衛門來、肴料理。	調	
2301	50		21	元亮、歡に來、酒出す、室小同様、室喜歡に來、佐兵衛・喜作、酒出す。	客	
2302	51			夜、三穗來、克己附添、酒肴出す、かん來、一同酒吞す。	客	
2303	52		22	夜、彦介來、酒飯出す。	客	
2304	53		23	千齡、晝迄、御醫師方角十軒餘つとむ、佐一郎一緒に夜食。	客	
2305	54		25	小學定日、六一來、酒出す。	客	
2306	55		27	今度千齡・餘一、結構奉告、御備物御肴、濱やき、竹原々昨日來。	祭	
2307	56		28	廣新次郎來、酒出す。	客	
2308	57			夜、佐一郎・忠平、一同に酒酌。	客	
2309	58	晦日		朱重にて、にしめ・かきもちやきて、同方へ見廻に遣。	調	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2310	59	5	朔	御備へ物、御肴鯛・御くしがき。	朔	
2311	60			今朝、乳つけ。	育	
2312	61		3	竹原、朔日出書状、濱やき鯛二來、米や勘兵衛便。	貴	
2313	62		5	御備物御肴、竹原濱やき。	五	
2314	63			京へ餘一書状出す、御祭器類少々相談申遣。	他	
2315	64		7	尾藤より、香料・菓子切類届、四月十三日出。	貴	
2316	65		8	京、書状、椎茸來、四月十八日出、湯淺正平便、秋山唯次郎事也、江戸へ歸參便也。	貴	
2317	66		11	京、書状來、菓子箱添、其外阿州・播磨邊、處々弔書來、五月三日、大坂を出。	貴	
2318	67		15	御備物、わらびもち、桑折播磨贈物、南父子拜、常太郎同様。	望	
2319	68		17	軍治母來、酒のます、鯛持參、歡也。	客	
2320	69		20	六一、定日來、酒出す。	客	
2321	70		25	六一、定日來、酒出す。	客	
2322	71		26	加母、南へ行序來訪、夕飯此方にて出し、八迄話。	客	
2323	72		29	需三郎、池口忠怒〔愚亭〕、書状、茶贈來。	客	
2324	73	6	朔	御備物、御肴、茄子かつほを入養、初物也、佐一郎來手傳、常太郎も來拜。	貴	
2325	74		2	夜南・彦助來、夜食出す。	朔	
2326	75		8	肴もらひ、鮓つける、夜、佐一郎來、出す。	客	
2327	76		15	御備物、御菓子、徳太郎、備へに贈所、佐一郎來手傳。	貴	
2328	77			六一、定日、來、酒間ニ合ず歸。	望	
2329	78		21	天のや重右衛門來、菓子持來、折節道味來、急に不逢、其内に歸る。	客	
2330	79		22	南へ、小ざかな贈る。	貴	
2331	80		26	わらび餅拵、いりこ五添、寺川隠居へ贈。	贈	
2332	81		27	阿賀彦五郎、酒肴おくり、夜二弟二勸る。	贈	
2333	82			千藏、定日にて來、酒・鮓出す。	貴	
2334	83	7	朔	御備物、御肴、千齡到來物こしらへ來。	客	
2335	84		5	京、書状、祭器御茶碗・御杯二くミ來、六月十七日出也、一寸返書遣す。	朔	
2336	85		7	御備へ濟、御肴、かまぼこ。	貴	
2337	86		12	おミほ、同時、便しげく、痢のきミ、ねつさめ、しよく氣少々づゝあり。	五	
2338	87		15	書、そうめん、徳藏よび、くハす、其外、伊助・たよ。	健	
2339	88		18	進藤へ、わらび餅こしらへ遣。	客	
2340	89		27	夜、予、進藤へ往、晚過行、深て歸、ミやげ、手製すし・酒一徳り。	贈	
2341	90	8	朔	御備へ、御肴、玉子焼て。	貴	
2342	91		2	夜、かん來、有合酒出す。	朔	
2343	92		5	六一、定日來、酒斷にて出ず。	客	
2344	93			夜、餘一、進藤へ見廻、熱つよく不食之由。	他	
2345	94		6	昨今、西樓之内拂除とて、忠藏・常五郎手傳、夕飯振舞。	健	
2346	95		8	夜、進藤へ見廻、病人同様、不食、からゑづきハ、昨日、減しと申事。	客	
2347	96		17	餘一、學舎へ出る、直に進藤へ見廻、同方にて夕飯す、晩方、玄蛙へ招被行。	健	
2348	97		19	りさ來、酒呑す。	族	
2349	98			忠平、下女と小いさかひにて、食事、茶の間へ出てくふ。	客	
2350	99		22	餘一、學問所、進藤へ行、同方にて、夕食たべかへる、病人快方、漸安心に至ると申事也。	他	
2351	100		24	進藤へ、饅頭五十、備物に遣す。	族	
2352	101		26	夜、進藤へ見廻申可、精進鮓、小陶に酒詰持爲遣す、夜、雨天に成、萬四郎來、留るゆへ相止る。	贈	
2353	102		27	夜、進藤へ、にしめ少々、うば親の贈物大根一把、すそわけ遣す。	贈	
2354	103	晦日		藤村松庵、ゑびのし・白銀一封、餘一歡に贈。	贈	
2355	104	閏 8	朔	御備物、御肴、かまぼこ、佐一郎手傳。	朔	
2356	105			餘一、進藤・駒井邊勤メル、進藤へ本直酒、小陶にて送。	贈	
2357	106		6	誠齋來話、酒出す、今晚、嚴島へ渡海と云。	客	
2358	107			おミほ、夜一度吐あり、今晚夜服ハやすミ候様、三圭申、しよく事同様、すこしもり一 碗、夜、安眠。	健	
2359	108		9	吉川へ持爲遣す、又、たのミゆへ、酒一樽相そへたのむ。		
2360	109		12	お三穗、快方、食味少々出来る、勇甫代脈。	贈	
2361	110			慈光院來る、夕飯出す。	健	
2362	111		13	京より書状、御備へ御菓子・小文筆等届、寺川庄助歸便、八月二十九日出。	客	
2363	112			夜、萬四郎來、酒出す。	貴	
2364	113		15	御備物、京、來御菓子、佐一郎手傳。	客	
2365	114		17	峯子來、飯、例の當座ナシ。	望	
2366	115		18	石工、重之物見廻に來、直に寺川見廻になまぐさ一色入かへ遣す。	客	
2367	116		23	石工、松茸贈、南・進藤へ少づゝ分つ。	贈	
2368	117		26	進藤、茶のこ來。	貴	
2369	118		27	萬四郎來、酒出す。	客	
2370	119			進藤、茶のこ來、竹原へ贈分、外に有。	客	
2371	120	9	朔	御備物相濟、佐一郎來手傳、御肴、たこ・にべくしやき、萬四郎、朝、一寸來拜、直に 歸。	朔	
2372	121		9	御備物、牛山園くり・はもすりミ・松茸、佐一郎來手傳、萬四郎遅く來拜、直太郎來助。	五	
2373	122		12	千藏、定日、來、跡にて酒有合出す。	客	
2374	123		15	御備物、御菓卷せん餅、南父子來拜。	望	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2375	124		19	江戸・京書状認、京へ豆腐百珍遣。	他	
2376	125		21	うらの京菜、このごろつける。	調	
2377	126		23	進藤と茶のこ餅來、佐十便、竹原へ遣す。	贈	
2378	127		24	進藤へ、四十九日備へ物、吹よせそうめん遣。	贈	
2379	128		27	萬四郎、御役所へ直に來、夜食酒出す。	客	
2380	129			千藏、定日來、一同に夜食出す。	客	
2381	130		29	伊助、二作つれ來、甘酒ノマス。	客	
2382	131	10	朔	月形七助來、南父子共逢、酒出す、家來七人、茶漬出す、晝前へ來、夕七つ頃歸。	客	
2383	132			みね子・映雪來、當座よむ、萬四郎も、一同夜食出し、二更頃歸。	客	
2384	133		3	夜、寺川へ弔にゆく、更て歸、うづらやき三十贈。	贈	
2385	134		4	京より九月二十一日出書状、御祭器來、徳太郎書。	賞	
2386	135		7	夜、千藏、定日、來、南父子も來、會讀聞、酒有合出す。	客	
2387	136		9	餘一、南へ往、同所にて夕飯くふ。	族	
2388	137		11	誠齋、暇乞に來、酒出す。	客	
2389	138		15	御備物、御菓子茶巾・御茶うぐひす。	望	
2390	139		18	京と書狀來る、砂糖一曲・おみほへ砂糖漬、十月五日出。	賞	
2391	140		29	から漬大こん來、好右衛門口次、新庄也。	賞	
2392	141	晦日		六一、定日、來、酒出す。	客	
2393	142			夜、千藏、定日、來、かゆ出す。	客	
2394	143	11	朔	御備物、御肴、かまぼこ、佐一郎來拜、遅く千齡來拜、千藏、二男連、朝來拜す。	朔	
2395	144		6	千齡來、夜食、酒出す、夜會聽。	客	
2396	145		15	御備物、御菓子、せんべい、千齡・南父子共來る。	望	
2397	146		17	神位御くり上に付、御酒肴備へる、千齡・佐一郎勤める。	祭	
2398	147		19	大すかうば來、無心申、米二升遣。	贈	
2399	148		20	祐甫弟祐治、入門、兄同道、時刻遅く成、盃事も成ず。	他	
2400	149			味噌仕込、豆七升・かうじ六枚。	調	
2401	150		22	大すか、人おこせ、二十五匁、南へ取に遣、米二斗遣す、俊平見廻旁、付添行。	贈	
2402	151	12	朔	御備物、御肴、雉子やきて、南贈物、佐一郎來手傳、千齡上墓後來拜。	朔	
2403	152		6	うん、しよく事こしらへ。	調	
2404	153			予、持病氣、サムケ・ノンド痛ミ、食味あし。	健	
2405	154			峯子と文、牡蠣おくり來る。	賞	
2406	155		9	予、サムケハよし、ドウキ強く、しよく味、本ニふくせず。	健	
2407	156		10	予、しよく味よし。	健	
2408	157		11	南と、そば切もらふ。	賞	
2409	158		14	終日、ゑんにて切干こしらへる。	調	
2410	159		15	慈光。映雪・峯來、當座、萬四郎も來詠、慈光宿、六一來、納なれば、吸物にて酒出す。	客	
2411	160		17	竹原より書狀來、十四日夕方、着之よし、あなご・三千三へ郡内切贈來。	賞	
2412	161		18	竹原へ返書出す、佐十ぶね、にんじん・午房贈、代三匁四分、ちと餘けいの様に覺へる。	贈	
2413	162		20	藤井料介來、酒出す、石碑の御禮等、南へ川論之儀、相談有よし也。	客	
2414	163		22	京・大坂書狀至る、金山と染物來、徳太郎と夜の梅てふ蒸菓子來る。	賞	
2415	164		24	築山と菓子贈、神位へ備へくれとの事也、外に柴肴贈來。	賞	
2416	165		25	餅つき、伊助・南の小者恵吉・たよ・俊平・幸助。	調	
2417	166		26	京・大坂へ返書出す、徳太郎・金山、徳太郎へゆたん一・金山へかうたけ・田中藤七へいりこ二十、御遺物朱すずりも一緒二遣、餘一とも返書。	贈	
2418	167	大30		彦介來、酒一寸出す。	客	
2419	168			〔本年中ノ分〕	贈	
2420	169			祝。一 酒二升 せんべい はこ板 小そうり 出船の時 一 にんしん 午房 後船便	贈	
2421	170			春風館祝。一 たひ 酒引 かけつき 札銀五匁 なまくさ おみほへ 進藤	贈	
2422	171			祝。一 かんさし 酒引 はこ板 駒井	贈	
2423	172			一 海苔三 加藤	贈	
2424	173			一 札銀三十匁 はこ板 諸口十束代 ぞうり二 酒引 かいぜんと丁〔養堂〕	贈	
2425	174			一 鹽鯛 築山	贈	
2426	175			一 砂糖一曲代貳匁六分 青木	贈	
2427	176			一 はこ柿 吉川	贈	
2428	177			一 はこ柿 山中權之進	贈	
2429	178			一 玉子 二十九	贈	
2430	179			一 酒壹樽 いばらや利兵衛	贈	
2431	180			祝。一 酒壹樽かいふや	贈	
2432	181			一 酒引 ぞうり 貳匁三五 二作 手島	贈	
2433	182			一 鉢肴三 寺川	贈	
2434	183			一 鱒 星野	贈	
2435	184			一 酒壹樽 牛尾	贈	
2436	185			一 此品後二戻す(二拾目) 生魚添 中村	贈	
2437	186			一 米三升小もち兩度二三十 鹽小さかな 大すかうば夫病氣にて困窮無心申兩度ニくろ米三斗札三十目用立	贈	
2438	187			一 三匁五分餘 くろ米五升代 寺川多門、矢助へ助力	贈	
2439	188			一 貳匁おみほと心付病氣之時來せ話 引さきかけつぎあぶら一 ふり切身一 多門	贈	
2440	189			一 貳匁 ふり切身一 もと	贈	
2441	190			一 香茸 壹斤二付四匁壹匁分は殘ス 同金山	贈	
2442	191			一 煮海鼠二十 大坂、田中藤七	贈	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
梅 颯日記 卷三十三		文化14年(1817)丁丑		106日/129項目		
2443	1	正月	元旦	御備物、御雑煮例之通、御酒御肴、例之通。	朔	
2444	2			2 雑煮祝。	調	
2445	3			寒酒の人、三四人。	客	
2446	4			3 雑煮祝。	調	
2447	5			4 兩三人、寒酒。	客	
2448	6			京より書状来る、十二月二十一日出、三盆白・寒餅等来る。	賞	
2449	7			7 御備へ物相濟、御肴、手製塩鯛やきて、佐一郎遅く來拜、御肴にて寒酒。	五 選	
2450	8			8 三穗來賀、幸助迎ニ遣、駕也、晩方小郎を招き、寒酒、夜食一同に出す。	客	
2451	9			二更頃、三穗歸る、伊助之料理。	調	
2452	10			10 廣村武兵衛來賀、かん酒。	客	
2453	11			11 具足鏡びらき。	調	
2454	12			讀初、來る人、植木兵太郎・末田直太郎・修平・三穗屋兄弟、かん酒・にしめ。	客	
2455	13			夜、餘一・忠平、南へ行、具足びらきに招所被、差間にて日の内往ずゆへ也。	他	
2456	14			15 御備物、御肴、するめ、三穗贈物、佐一郎遅く來拜。	客 贈	
2457	15			三五、元服し、伊助つれ来る、小豆飯贈、酒一樽・さかな料五匁遣す。	贈 調	
2458	16			18 三浦俊藏なる者、會讀に出席をたのみ、生肴・束修一封持參、忠平しる人也。	賞	
2459	17			20 六一、講釋はじめ、寒酒旁、酒出す。	客	
2460	18			21 竹原へ返書、年糕遣す。	贈	
2461	19			24 晝前、秋山歸る、札三匁・油十兩遣す。	贈	
2462	20			26 餘一、此頃少々不氣色、食進ず、今夜食、鮓とゝのへ食せしむ。	健 調	
2463	21			27 晩方、彦介來、神主拜、夜食已後歸。	客	
2464	22			28 夜食に、佐一郎・常太郎・六一まねく、伊助料理也。	客 調	
2465	23	2	朔	夕、雪翁來、暮近話、餅出す。	客	
2466	24			9 夕かた、万四郎・彦介來、酒飯出す。	客	
2467	25			11 駒井晩方來、茶漬出す。	客	
2468	26			18 京より書状来る、正月十四日認、金山、茶・こん布、御備へに贈来る、三穗來、迎ひ遣す。	賞	*32
2469	27			19 夜、南新婦よぶ、伊助妻・矢木忠藏、其外家來迄、米、一斗入用。	他	
2470	28			20 予、快、食味常にふくす。	健	
2471	29			餘一、南を誘はれ、うし田へ行、歸りがけ、萬四郎一同に、進藤へ來、慈光も来る、三軒かうや土手へ、慈光つれ立、もゝ見に行、りさ、酒持来る。	賞	
2472	30			28 風呂たてる、千齡入に來、酒飯す、數馬來、一同に酒飯す。	客	
2473	31	3	朔	夕方、千齡・餘一・門人二人、長尾の櫻に行、徳二郎方にて辨藤開、詩出來、予も行、一同二更過歸。	族	
2474	32			2 坂井へ、はまち・さゞみ四、歡に贈、昨日いづや忤を贈所。	賞 贈	
2475	33			3 御備物、御肴、さゞみ煮しめて、千齡・佐一郎來拜。	五	
2476	34			8 千齡來、今晚乗船、酒出す。	客	
2477	35			慈光院來、酒出す。	客	
2478	36			11 良吾書状来る、二月十五日認、御備菓子料南鐐一片来る。	賞	
2479	37			12 萬四郎、夕かた來、酒飯出す。	客	
2480	38			14 慈光院へ、砂糖一曲、代貳歩、御遺物之爲、千蔭和歌・文晁竹の一幅遣す。	贈	
2481	39			玄蛙來り話、年始初て也、酒出す。	客	
2482	40			20 香川日向守、茶のこ來。	賞	
2483	41			忠平、鯛とゝのへ、鮓つけさす、うば、つける。	調	
2484	42			25 梶山、定日早く來、酒飯出さず。	客	
2485	43	4	1	御備物、御肴、かまぼこ、南父子遅く來拜。	朔	
2486	44			夜、天氣よく成しと、うばしきりにせがみ、二更頃、にしめこしらへ、明日川上へ行仕度。	調	
2487	45			16 進藤、茶のこ贈來、本源院十七回忌也。	賞	
2488	46			18 進藤へ、饅頭五十贈。	贈	
2489	47			三穗や兼松、養子に行、歡ごゝろに着一尾贈。	贈	
2490	48			21 三穗來る、映雪、大田や母つれ來、徳太郎方にてせ話に成し禮に來度との事也、鯛一尾贈、當座よむ。	賞	
2491	49			22 中村へ菓子箱・線香贈、菓子、川江三好又右衛門忤茂兵衛贈所。	賞 贈	
2492	50			24 廣村清右衛門來、酒肴・ふき贈。	賞	
2493	51			到來のさかなにて、寺川後室招。	賞 客	
2494	52			26 夜、萬四郎來話、酒出す。	客	
2495	53	晦日		南の誕生日ニ付、小豆飯・平・贈贈。	賞	
2496	54	5	朔	御備物、御肴、幸助在之ミやげ、さまつ・かまぼこ、萬四郎遅く來拜、佐一郎足痛不參。	賞 客	
2497	55			2 りさ來、酒肴持參、富のすそわけ。	賞	
2498	56			3 まき〔粽〕こしらへる、三升五六合。	五 選	
2499	57			5 御備物、御肴、きうりもミ・あぢ、萬四郎來拜、遅く佐一郎來。	五	
2500	58			15 御備物、御菓子、葛もち・三盆白砂糖、千齡・佐一郎來、備へる、萬四郎遅く來拜。	望	
2501	59			18 三千、熱減し、氣かろき方、千齡・萬四郎見廻、酒飯す、道味見廻。	客	
2502	60			19 三千兒、いよへ快、飯、朝をたべる、道味見廻、藥調合。	健	
2503	61			24 菅喜藏書状、氷砂糖一曲贈來。	賞	
2504	62			29 江戸より書状来る、四月二十二日認、お萌書状、四月四日認、大和がき、小もん縮緬切、仙齋茶小もん・えもん切おくる。		

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2505	63	6	朔	御備物、御肴、千齡 [△] 贈、鮎、南父子來拜。	朔	
2506	64		3	論語講釋、朝飯前に初る。	他	
2507	65		15	御備、御菓子、千齡 [△] 贈大佛餅、同人・佐一郎來拜。	望	
2508	66		17	御祭禮の日ゆへ、小豆飯・ナマスこしらへる。	祭	
2509	67		18	寺川 [△] 煮豆贈來、葛、うつり入。	貰	
2510	68		21	餘一、暑見廻・江戸戻り勤める、吉川にて中食。	族	
2511	69		22	夕かた [△] 、茶ぶねにて加古町つくり物見に行、つくり物、晝限りに仕舞、川内にてあそび 歸。	他	
2512	70		25	中村へ家督歡遣す、鯉節十・清水〔銘酒〕二升、舊冬藥禮受ず、其報、こゝろこめる。	贈	
2513	71		28	吉川徳藏、肴持參、雄佐昇進吹聴に贈也。	貰	
2514	72	晦日		小倉泰藏來見、中飯出來合出す。	客	
2515	73	7	朔	進藤へ、御肴、鯛小串やき、鯛、千齡贈、御備物、外に手傳ナシ、佐一郎、申ぶん有て不 參、萬四郎來拜。	朔	
2516	74			餘一、御禮滞申上る、支配其外共廻勤、進藤へも行、同所にて、物たべ、つとめ勤、晝過 に成る、澤井半外 [△] 奉書來、七つ時、同所で罷出候様にとの事にて往、屋敷替仰付被也。	貰	
2517	75		2	千齡來、夜食酒出す。	客	
2518	76		3	進藤來、夜食後、萬四郎來、屋敷之事二付、書付持參相談、伊助も來。	他	
2519	77		7	御備物、御禮後仕、御肴、千齡贈鯛サシミ、南父子來、手傳。	五	
2520	78		11	進藤へ、退夜によバレ、餘一行、同方へ饅頭四十贈。	贈	
2521	79			佐一郎、夜、見廻に來、三穗一同に酒出す。	客	
2522	80		24	筑前の兩士、晝の事にて來る、春水の〔靈〕牌前へ備へくれと、干菓子・鯛おくる。	貰	
2523	81		29	萬四郎、御役所戻り、來、酒飯す。	客	
2524	82	8	朔	御禮後、御備物、御肴玉子にぬき、佐一郎來、手傳、萬四郎遅く來拜、酒出す。	朔	
2525	83		5	六一、定日來、酒斷にて、菓子差出す。	客	
2526	84			二更頃、同方へ往、御貸米仰出被也。	他	
2527	85		10	夜、南へ行、會讀、小鳥五羽口羅ひ歸、上田贈物の由。	貰	
2528	86		14	餘一、南の供して、月見に行、酒一樽持參。	他	
2529	87		22	東邊歩行、三穗約束之所、急に違ひ、寺川後室、誘ひ行、歸り、寺川にて夜しよくくひか へる。	他	
2530	88	9	朔	御備遅く成、御焼肴・松茸、佐一郎來、手傳。	朔	
2531	89			右歡に、酒一升五合入・鱸一尾、代三匁九分也、直に贈る。	贈	
2532	90		2	夕方、萬四郎來問、酒出す。	客	
2533	91			映雪 [△] 、新酒おくり。	貰	
2534	92		6	家來へ切米貸す、幸助へは此中遣す。	他	
2535	93			數馬見廻、茶漬出す、晩方也。	客	
2536	94		7	茶ぶねにて、餘一はじめ、あそびに出る。	他	
2537	95		8	南 [△] 御備の栗贈來、牛山園の栗。	貰	
2538	96		15	御禮登城、加藤御用に付、聞歸とて見合、歸遅し、夫 [△] 御備物、佐一郎來、手傳、御菓 子、林角外 [△] 贈、きねり・柿せんべい添。	貰	
2539	97		16	萬四郎出郡、同方 [△] 松茸二・御内々拜領のひよ鳥三、御備へとて贈來。	貰	
2540	98	10	2	萬四郎出勤歸がけ訪、酒飯す。	客	
2541	99		4	常太郎、塩竹のこ持參、明日御備へにと也、南 [△] くらつけ米よりて、御備へに來、香茸二 同。	貰	
2542	100		5	御忌日、御備物成る、南父子來。	忌	
2543	101		6	餘一、府中へ歩行、暖にて、單物にて行、包屋にて酒食す、六一同伴。	族	
2544	102			夜、伊助來、酒呑す。	客	
2545	103		7	吉和傳藏來、濱やき二・焼塩二おくる。	貰	
2546	104		8	京 [△] 書狀來る、八月晦日認、追啓、九月朔認、おぐら野菓子贈來、田中藤七添書、九月二 十四日、小倉野も其時にとゝのへ來る也。	貰	
2547	105		12	吉川 [△] 、生魚贈、入門之驗。	貰	
2548	106		13	布川春澤來、菓子箱持參。	貰	
2549	107			正善坊へ菓子贈、都まん頭二十四。	贈	
2550	108		15	登城後、御備、御菓子小倉野、徳太郎贈所、佐一郎來拜、御備手傳、夕方、萬四郎來拜。	望	
2551	109			彦介來、飯出す、初更頃歸。	客	
2552	110		17	南の矢助、南へ申遣、萬四郎來、酒宴、道味も來、三穗見てもらふ、歸、早助・新兵衛、 かご。	客	
2553	111		19	竹原へ、いはし漬て、書狀添遣す、傳藏孫輩便。	贈	
2554	112		23	かいぜん丁 [△] 、ひらたけ・うど、御備にとて贈來。	貰	
2555	113		25	書畫あき人來、中飯乞、遣す。	客	
2556	114		29	廣村清右衛門來、鯛・保命酒贈。	貰	
2557	115	11	朔	御備物、御肴、竹原 [△] 來、濱やき、佐一郎來、手傳、萬四郎遅く來拜。	朔	
2558	116		7	竹原へ入合祝儀に、酒二升贈る。	贈	
2559	117		24	京 [△] 書狀、とらや饅頭、并蒸す土器來、十月二十四日認、田中藤七添書ハ、當月十一日 也。	貰	
2560	118		25	慈仙寺に、書畫會あり、餘一行、晩方歸、萬四郎行し所、多人數、せきて、直に此元へ 歸、酒飯す。	族	
2561	119	12	朔	御備物、御肴、ちくは・かまぼこ・雲州橋、佐一郎來、手傳、萬四郎、遅く來拜。	朔	
2562	120		3	千齡來見、三はら大根・いも・鹽鯛一、三千三に、糸島羽織贈。	貰	
2563	121		5	千齡來、酒飯す、夜、講釋、此方にて聴。	客	

通し No.	巻内 No.	月	日	内容	分類	備考
2564	122		8	夜、駒井蕎麥にて、招被行、酒引持参。	他	
2565	123		13	福馬・太郎三・徳之助・彌三郎・數馬見廻、酒飯す。	客	
2566	124		15	御禮御登城、下り、御備物、御菓子、うづらやき、千齡贈。	望	
2567	125			夜千賀來、深更一同に歸、千齡・萬四郎、一同酒飯す。	客	
2568	126		17	夜、南へ行、夕、かいぜん丁、御園へ、酒一樽遣す、江戸ミやげ返禮、大橋大之進贈所。	贈	
2569	127		19	千齡乗船、貞吉へ帶地、例の歳暮物にんじん・午房贈。	贈	
2570	128		23	もちつき、四斗一升、白米にして、内五升斗のこす、たゞ米五升・粟一斗、外にかきもち用七升。	調	
2571	129		26	餘一、頭痛ハよし、時々むねあしく、不食の方。	健	

- * 1 享和元年2月16日 久太郎（22歳）妻 淳（17歳）離縁
- * 2 享和元年2月20日 淳 男子出産（都具雄、後に餘一、号は聿庵）、静 孫を引取り養育
- * 3 享和元年4月28日 久太郎（22歳）、著述活動開始
- * 4 享和元年5月16日 春水（56歳）、帰藩
- * 5 享和2年8月27日 春水（57歳）、江戸へ
- * 6 享和3年5月16日 春水（58歳）、帰藩（これ以降、江戸詰め無し）
- * 7 享和3年10月8日 久太郎（24歳）、廃嫡
- * 8 享和3年12月7日 久太郎（24歳）、幽閉解かれ、対面叶う
- * 9 文化元年1月15日 春水弟春風の子熊吉（14歳）を嗣とする
- * 10 文化元年12月11日 久太郎（25歳）、門外も自由の身となる
- * 11 文化2年5月9日 熊吉（15歳）、元服（権次郎と改名）
- * 12 文化2年8月26日～9月25日まで 春水、久太郎、十他、竹原旅行
- * 13 文化4年9月21日～10月3日まで 春水、権次郎、竹原旅行
- * 14 文化5年4月22日 十（三穂、19歳）、藩士進藤彦助に嫁ぐ
- * 15 文化6年12月27日 久太郎（30歳）、神辺の萱茶山塾に入る
- * 16 文化7年6月1日 孫、都具雄（10歳）、餘一と改名
- * 17 文化7年8月26日～翌5月22日まで 権次郎（21歳）、江戸遊学
- * 18 文化8年閏2月6日 久太郎（32歳）、京都へ出立
- * 19 文化8年12月1日 春水（66歳）、藩儒召出し30年の祝
- * 20 文化10年3月26日 春水（68歳）、餘一（13歳）、大坂にて久太郎（34歳）と対面
- * 21 文化11年2月15日 久太郎（35歳）、小石氏娘 梨影と結婚
- * 22 文化12年1月28日 権次郎、竹原にて没す（21歳）
- * 23 文化12年3月7日 権次郎遺腹の子、三千三生まれる
- * 24 文化12年4月6日 餘一（15歳）を嫡男とし、家督相続聴許
- * 25 文化12年4月11日 餘一（15歳）学問所入学
- * 26 文化12年5月6日 春水（70歳）、70歳の賀内祝
- * 27 文化12年8月2日 餘一（15歳）、元服
- * 28 文化12年12月2日 春水（70歳）、胸痞を發し、『春水日記』擱筆
- * 29 文化13年2月11日 春水（71歳）、梅颯二大字を揮筆
- * 30 文化13年2月19日 春水没す（71歳）
- * 31 文化13年4月17日 餘一（16歳、聿庵）、家督を相続
- * 32 文化14年2月19日 春水小祥忌（一周忌）

（1999年11月2日受理）

